

リアホナ

生けるキリスト
9ページ

ジョセフ・スミス——
回復の預言者
37ページ

テンプルスクウェアを
飾りましょう
「フレンド」8ページ

リアホナ



表紙

「思いを巡らすマリヤ」
ジェフリー・ハイン画。
複写は禁じられています



「フレンド」表紙

「その名は聖妙となえられる」
サイモン・デュイ画。
ユタ州アメリカンフォーク、
アルタス・ファイン・アート社の
厚意により掲載。複写は禁じられています



「ただの農場の少年ではなく」
37ページ参照



「クリスマスのクロスステッチ」16ページ参照

一般

- 2 大管長会メッセージ——平和の力 第二副管長 ジェームズ・E・ファウスト
- 6 主は生きておられる
- 9 生けるキリスト——使徒たちの証^{あかし}
- 14 家族を強める——家族は創造主の計画の中心を成すものである
- 16 クリスマスのクロスステッチ デビッド・トーイ
- 20 モルモン書に記された原則
——どうしたら証できるでしょう 地域幹部七十人 ハンス・H・マツソン
- 22 モルモン書に記された原則
——キリストのもとに来る 七十人 ロバート・R・ストイアー
- 25 家庭訪問メッセージ——奉仕を通して主の愛を感じる
- 26 力強い手と優しい心
- 43 末日聖徒の声
クリスマスイブの朝食 トーニ・ヘークス
アパラチア山脈のクリスマスツリー ローリー・ホブキンズ
まずカードを開けてごらん下さい
サムエル・オソリオ・メンドーサ
地下鉄の宣教師 レミー・ファン・デル・ブット
- 48 読者からの便り

青少年

- 10 神の手 十二使徒定員会 M・ラッセル・バラード
- 19 ポスター——自らをささげなさい
- 31 御存じでしたか
- 32 預言者生誕の地 ジャネット・トーマス
- 37 福音クラシック——ただの農場の少年ではなく
十二使徒定員会 マーク・E・ピーターセン
- 40 質疑応答——わたしは魅力的ではありません。「そんなことはないよ」なんて
言わないでください。どうしてこのような姿で生まれたのでしょうか。

「キリストのもとに来る」
22ページ参照

フレンド

- F2 1年^{ねん}でいちばんすばらしいとき
——大管長会から世界中の子供たちへのクリスマスメッセージ^{こども}
- F4 作^{つく}ってみよう——イエスには、この地上に正しいりょうしんがいました^{ただ}
- F6 ヒーバー・J・グラントだいかんちょうのしょうがいから
——なさけぶかいじつぎょうか
- F8 テンプルスクウェアのクリスマス キンバリー・ウェッブ
- F10 分かち^{わか}合い^あの時間^{じかん}
——一年中^{いちねんじゅう}できるクリスマスのおくりもの シーラ・E・ウィルソン
- F12 クリスマスのキャベツ トリサ・マーティン
- F16 特別な証人——いましめを守る人を 十二使徒定員会 ロバート・D・ヘイルズ



「マリヤ」 ジェームズ・C・クリステンセン画

「すると御使ついで（カブリエル）が言った、「恐れるな、マリヤよ、あなたは神から恵みをいただいているのです。見よ、あなたはみどりごもって男の子を産むでしょう。その子をイエスと名づけなさい。」
……そこでマリヤが言った、「……お言葉どおりこの身に成りますように。」」（ルカ1：30-31、38）

末日聖徒イエス・キリスト教会公式機関誌(日本語版)
大管長会:ゴードン・B・ヒンクレー、トーマス・S・モンソン、
ジェームズ・E・ファウスト
十二使徒定員会:ボイド・K・バッカー、L・トム・ペリー、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホルランド、ヘンリー・B・アイリング、ディーター・F・ウーケトドルフ、デビッド・A・ベドナー

編集長:ジェイ・E・ジェンセン
顧問:モンティ・J・ブラフ、W・ロルフ・カー
実務運営ディレクター:デビッド・フリッシュニク
企画編集ディレクター:ピクター・D・ケーブ
グラフィックスディレクター:アラン・R・ロイボーグ
機関誌編集ディレクター:リチャード・M・ロムニー
編集主幹:マービン・K・ガードナー

編集スタッフ:コレット・ネベカー・オース、スーザン・バレット、シャナ・バラード、ライアン・カー、リンダ・ステール・クーパー、マリオン・ポーター、ガート、ジェニファー・L・グリーンウッド、R・バル・ジョンソン、キャリー・カステン、メルビン・リービット、サリー・J・オデカーク、アダム・C・オマソン、ジュディス・M・バーラー、ビビアン・ポールセン、ドン・L・サール、レベッカ・M・テラー、ロジャー・テリー、ジャネット・トーマス、ポール・J・アンデンバーグ、ジュリー・ワーテル、キンバリー・ウェップ、モニカ・ウーグス

実務運営アートディレクター:M・M・カワサキ
アートディレクター:スコット・バウ・カンペン
制作主幹:ユエーン・アン・ピーターズ
デザイン・制作スタッフ:ケリー・アレンプラット、ハワード・G・ブラウン、トーマス・S・チャイルド、レジナルド・J・クリステンセン、キャスリーン・ハワード、デニス・カービー、タッド・R・ピーターソン、ランドール・J・ピクストン、カリ・A・トッド、クラウディア・E・ワナー

マーケティング部長:ラリー・ヒラー
印刷ディレクター:クレグ・K・セジウィック
配送ディレクター:クリス・T・クリステンセン

●定期購読は、「リアホナ」注文用紙]でお申し込みになるか、郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●「リアホナ」のお申し込み・配送についてのお問い合わせ……〒133-0057東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター 電話 03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会
〒106-0047東京都港区南麻布5-10-30
電話 03-3440-2351

定価 年間予約/海外予約 2,400円(送料共)
半年予約 1,200円(送料共)
普通号/大会号 200円

「リアホナ」への投稿およびご質問は、下記の連絡先にお送りください。
Room 2420, 50 East North Temple Street,
Salt Lake City, UT 84150-3220, USA
電子メール:cur-liahona-imag@ldschurch.org

「リアホナ」(モルモン書)に出る言葉「羅針盤」または「指示器」の意は、以下の言語で出版されています。
アイスランド語、アルバニア語、アルメニア語、イタリア語、インドネシア語、ウクライナ語、英語、エストニア語、オランダ語、韓国語、カンボジア語、キリバス語、クワチア語、サモア語、シンハラ語、スウェーデン語、スペイン語、スロベニア語、セブア語、タイ語、タガログ語、タヒチ語、タミル語、中国語、チェコ語、テルグ語、デンマーク語、ドイツ語、トンガ語、日本語、ルウエー語、ハイチ語、ハンガリー語、フィンランド語、フィンランド語、フランス語、ブルガリア語、ベトナム語、ポランド語、ポルトガル語、マージナル語、マダガスカル語、モンゴル語、ラトビア語、リトニア語、ルーマニア語、ロシア語。(発行頻度は言語により異なります。)
©2004 Intellectual Reserve, Inc. 著作権所有。印刷:日本
「リアホナ」に掲載されている文章や視覚資料は、教会や家庭において臨時に、また非営利目的に使用する場合は複写することができます。視覚資料に関しては、作品のクレジットに制限が記されている場合に複写できないことがあります。著作権に関するご質問は、Intellectual Property Office, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, UT 84150, USAに郵送するか、電子メール——cor-intellectualproperty@ldschurch.org にご連絡ください。
英語版承認—1996年8月 翻訳承認—1996年8月
原題—International Magazines December 2004.
Japanese. 24992 300
「リアホナ」は、教会のホームページwww.lds.org (英語)に様々な言語で掲載されています。英語の場合は「Gospel Library」(福音図書館)をクリックしてください。その他の言語は世界地図をクリックしてください。

For Readers in the United States and Canada:
December 2004 no. 12 LIAHONA (USPS 311-480) Japanese (ISSN 1521-4729) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, UT 84150. USA subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$16.00 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah, and at additional mailing offices. Sixty days notice required for change of address. Include address label from a recent issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian subscriptions and queries to Salt Lake Distribution Center at address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone. (Canada Post Information: Publication Agreement #40017431)

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.

「リアホナ」の活用法

家庭の夕べのためのアイデア



●「神の手」10ページ——

M・ラッセル・バラード長老の記事の中から幾つかのお話をしてください。少し時間を取って、特別な助けを必要としている知人のことについて家族で考えます。そして、その人の必要を満たすために今週どのような助けができるか、紙に書き出してもらいます。

●「クリスマスのクロスステッチ」16ページ——

この話を家族で一緒に読み、永遠の家族を持てるかもしれないということは、自分にとってどのような意味があるかを家族に尋ねます。家族の名前を無作為に選び、その人のそばに永遠にいた理由を具体的に話すこともできるでしょう。この具体的な愛の言葉が、家族にとって今年最良のクリスマスプレゼントになるかもしれません。

●「^{あかし}どうしたら証できるでしょう」20ページ——

ハンス・H・マツソン長老は、言語の訓練を受けずに伝道に出たときのチャレンジについて語っています。あなた自身の経験の中で、主から何か困難なことをするよう求められたときのことについて、家族に話してください。主の助けにより、どのように弱さが強さに変わるか説明します。

●「ただの農場の少年ではなく」37ページ——

預言者ジョセフ・スミスの生涯と使命の中から一つまたは複数の事柄について家族と話し合います。ジョセフ・スミスの使命とモルモン書の真実性について証してください。

●「クリスマスのキャベツ」

F12ページ——アニーがキャベツを手に入れに行く物語のあらすじを家族に話してもらいます。クリスマスの伝統の中で、救い主の降誕とその使命に関連するものにはどのようなものがあるか、家族に尋ねてください。クリスマスの真の意味を思い起こさせる新しい伝統を家族で考えてみましょう。

●「いましめを守る人」F16ページ——

子供たちに、アビナダイの話をしてください。主は時々難しいことをするよう命じられることを説明します。子供たちに守るのが難しい戒めがあるか尋ね、従順であることによって与えられる祝福について教えてください。

今月号に採り上げられているテーマ

Fは「フレンド」の略	
愛	25, F2, F6, F10
証	25, F2, F4, F8, F10
イエス・キリスト	2, 6, 9, 10, 22, 25, F2, F4, F8, F10
祈り	43
癒し	10
教え	1
回復	32, 37
家族	14, 16, F4, F10
家庭訪問	25, 26
神の性質	40
逆境	20
クリスマス	2, 16, 19, 31, 43, F2, F8, F10, F12
結婚	14
才能	19, 40
指導性	31
自分の価値	40
従順	F4, F16
ジョセフ・スミス	32, 37
初等協会	F10
神殿	14, 16, F8
救いの計画	14, 22
聖霊	22
伝道活動	20, 43, F12
扶助協会	26
平安	2, 10
奉仕	10, 19, 25, 26, 43, F6, F8, F10
ホームティーチング	5
守り	F12
モルモン書	20, 22, 37, F16
友情	26
救い	2
預言者	6, 9, 10, 32, 37, F6
靈感	43



平和の力

第二副管長

ジェームズ・E・ファウスト

皆さんとともにこのすばらしいクリスマスよわいの季節を喜びたいと思います。年齢を重ねた分、これまで多くのクリスマスを楽しんで過ごしてきました。しかし、年を取るにつれて、毎年この特別な季節の楽しさが増すように感じます。恐らく、愛し、愛される人々が自分自身の家族だけにとどまらないからでしょう。

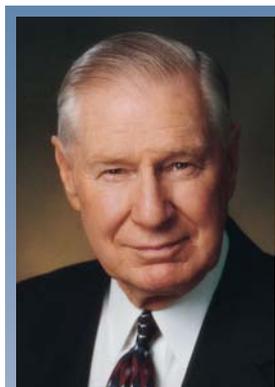
クリスマスの思い出の中でも特にわたしの記憶に鮮明に焼きついているのは、伝道の召しや軍務を果たしていたときなど、家族や愛する人々から遠く離れて過ごしたクリスマスです。軍隊にいた第二次世界大戦中には、クリスマスの度に、いつになったらこの恐ろしい戦争の苦難や心痛が終わりを告げ、皆で故郷に帰れるのだろうかと思ったものです。また、「地には平和を 人に親しみ」¹と歌うときには、ドイツ人や日本人のクリスチャンたちも、この慣れ親しんだ歌詞を自分と同じ願いを心に抱きながら歌っているのだろうかと思ったものです。その戦争は59年前、日本に2発の原子爆弾が投下されて完全に終結しました。そのような破壊的な力を人類はそれまで経験したことがありませんでした。解き放たれた野獣のような爆弾について、わたしたちは心配しました。

ケネス・J・ブラウンの語った話を紹介しま

しょう。彼は、原爆投下後の日本で、合衆国海軍の一員として働きました。彼がクリスマスの時期に長崎で出会った日本人のクリスチャンについての感動的な話は次のようなものです。

「わたしは、その男性が通りを曲がって兵舎に通じる道を上って来るのを見ていました。彼は手探りをしながら進み、ためらっているようでした。そして近くまで来ると傘を畳み、しばらく静かにたたずんでいました。彼の薄手のコートは空から降る冷たい雨にすぐにくっしょりとなりました。その同じ空から、わずか3か月前に町の半数近い人々に死がもたらされたのです。招きも受けずに自分たちの占領者のもとに来るには相当の勇気が要ることだろうと思いました。彼がためらっているのも無理はありません。

男性はわたしに向かって丁寧にお辞儀をしましたが、それは服従心からではありませんでした。むしろ、わたしは彼より1フィート(約30センチ)以上背が高かったにもかかわらず、……胸を張り、顔をまっすぐに向けたその姿勢のせいか、わたしの方が彼を見上げているように感じられました。爆弾が投下された朝、空を仰いでいた人々はほとんど目が見えなくなっていました。そのような人たちの目をあまり見たことがなかったため、この男性を見たときに当惑したのを今でも覚えています。……



キリストの力は、
2,000年以上もの間、
主に従う地上の人々を
善なる行いへと
駆り立ててきました。
それは、
イエス・キリストが
わたしたちの贖い主、
救い主であられる
という知識から
得られる力です。

……何かお役に立てることがありますか、と丁寧に尋ねると、〔彼は明瞭な英語で〕自分は飯田教授であると自己紹介しました。……

彼はこう続けました。『わたしはクリスチャンです。ここに軍隊の宗務指導者の事務所があるとうかがって来ました。あなたはクリスチャンですか。キリストに従う人と話せて光栄です。日本人のクリスチャンはわずかしきませんから。』

わたしは彼を隊の従軍牧師がいる兵舎の中に案内し、二人が話し終えるのを待っていました。飯田教授は自分の願いを手短かに述べました。彼は、国の命令によって閉鎖されるまで、キリスト教系の女子大学で音楽を教えていました。……そしてキリスト教を信じていることを公言したため投獄されたのです。保釈後、長崎に戻った教授は、禁止されてはいたものの、自宅で音楽の指導を続けました。以来、少人数の合唱団を維持し続けることができたので……合衆国海軍のためにコンサートを開いて歌わせていただけないかと申し出たのです。

教授はこう言いました。『わたしたちはアメリカのクリスマスがどのようなものなのか多少知っています。皆さんに日本でのクリスマスをもっと楽しんでいただけるよう、お役に立ちたいのです。』

従軍牧師はきっとこの申し出を断るだろうと思いました。わたしたちの隊にいるのは、4年も故郷を離れた頑強な兵士ばかりで、サイパンから硫黄島にかけて敵と戦ってきていました。……しかし、善い行いをしたいという心からの望みを訴えるこの男性にはどこか人の心を引きつけるところがありました。……許可が下り、コンサートはクリスマスイブに開かれることになりました。

雨がやみ、被爆地に漂う静けさが、キリストが降誕されたときの静寂をしのばせました。コンサートには大勢が出席しました。ほかにすることがなかったからです。劇場では……落下していた屋根が片付けられ、兵士たちは崩れた壁のでこぼした残骸の上に腰かけました。出演者が順序よくステージに登場すると、聴衆は一瞬にして静まり返りました。……

最初に気づいたのは、彼らが英語で歌っているということでした。やがてわたしたちは、彼らが意味を理解してはいないけれども、わたしたちのために暗記しているということに気づきました。飯田教授は生徒をよく教えていました。実に美しい歌声でした。天の聖歌隊がわたしたちのために歌っているかのようで、わたしたちは魅了されて座っていました。……まるで、その夜、キリストが再び降誕されたようでした。

最後の曲は独唱で、「メサイア」のアリアでした。イエスはまことに全人類の救い主であられるという確信を込めて少女

が歌うと、皆の目に涙が浮かびました。歌の後、1分間の沈黙があり、拍手喝采が巻き起こりました。その少人数の合唱団員たちは何度も何度もお辞儀をしていました。

その晩遅く、わたしは飯田教授が飾りつけを片付けるのを手伝いました。失礼とは知りつつも、好奇心に駆られて幾つかの質問をせずにはいられませんでした。どうしても知りたかったのです。

わたしは尋ねました。『団員の皆さんは、どうやって原爆から生き延びたのですか。』

『これは元の人数の半分です。』教授は穏やかに答えました。そして悲しみを思い出させたことに対し感情を害していないようだったので、もう少し尋ねることにしました。

『ご家族はどうになりましたか。』

『ほとんど全員が一人かそれ以上の家族を失っています。孤児になった子供たちもいます。』

『独唱をした少女はどうですか。あの子はその歌声のように、きっと天使のような心の持ち主なのでしょうね。』

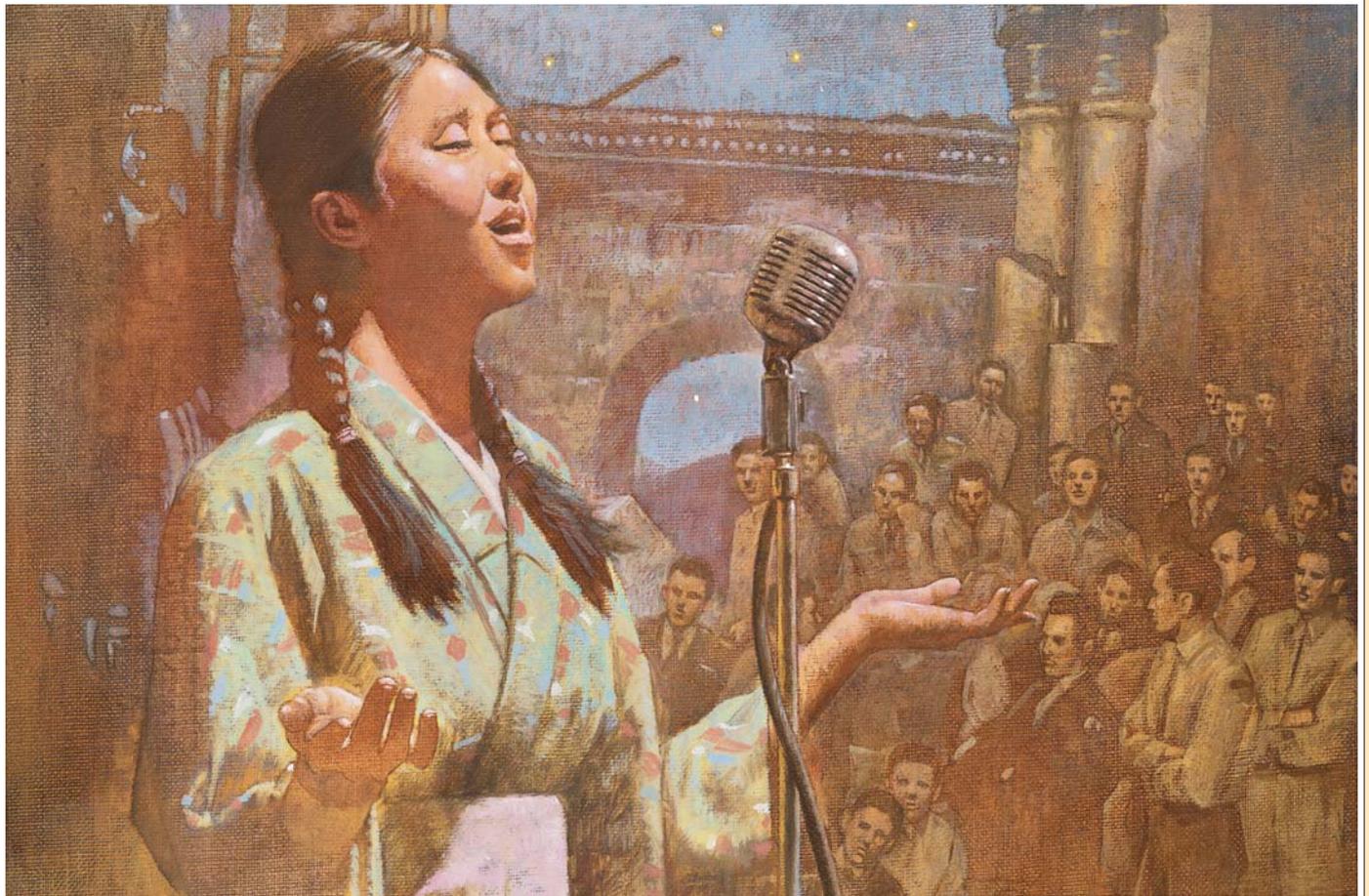
『彼女の母親と二人の兄弟は死にました。ええ、実に上手に歌いました。ほんとうにあの子を誇りに思っています。わたしの娘なのです。……』

翌日はクリスマスでした。最も印象に残ったクリスマスです。人々がキリストの教えに喜んで従おうとしなかったにもかかわらず、キリスト教の精神は消え失せなかったことをその日確信できたからです。わたしは、憎しみが奉仕に、心痛が喜びに、悲しみが赦しに姿を変えるのを見たのです。このことは、幼子がかいばおけの中にお生まれになり、〔その〕後に、神と隣人への愛を説かれたおかげで可能となりました。わたしたちは日本人に最も大きな悲しみを引き起こしました。それでも、わたしたちはクリスチャンとして彼らの兄弟です。まさにそのような精神で、彼らは進んで自らの悲しみを忘れ、ともに『地には平和を 人に親しみ』と歌おうとしていたのです。

飯田教授のお嬢さんが歌った歌詞に込められた証が色あせることはないでしょう。『まことに彼はわたしたちの悲哀を負い、わたしたちの悲しみを担った。』その言葉は、あの日、半ば壊滅した町に響き渡り、人々の心にこだましているようでした。

また、その日わたしは、地上には原爆よりも大いなる力が存在することを知りました。』²

その力は、2,000年以上もの間、主に従う地上の人々を善なる行いへと駆り立ててきました。それは、イエス・キリストがわたしたちの贖い主、救い主、御父に対する弁護者、王の王、主の主、平和の君であられるという知識から得られる力



**イエスはまことに全人類の救い主であられるという
確信を込めて少女は歌い〔ました。〕
……わたしは、憎しみが奉仕に、心痛が喜びに、
悲しみが赦しに姿を変えるのを見たのです。**

です。その力によってわたしたちは、主の教えに対する信仰と従順を通して、喜びと幸福、平安と慰めを見いだすことができるのです。

神権の力によって世界は創造され、救いと幸福の計画が、聖約への忠実さを条件にわたしたちの生活を祝福できるよう備えられました。主が十字架上で苦しまれたことにより、その力はさらに大なるものとなり、人類に最も重要な祝福がもたらされました。歴史上最も偉大な行いは、わたしたちの救い主、贖い主による贖いの犠牲でした。

主の降誕を祝うこの季節、わたしたちはその犠牲を思い起こします。平和の君が払われた贖いの犠牲を通してのみ、わたしたちは自身の生活の中で平和の力を知ることができるのです。■

注

1. 「昔、ユダヤの野辺に」『賛美歌』126番
2. "A Greater Power" Christmas I Remember Best: A Compilation of Christmas Stories from the Pages of the Deseret News (1983年), 51-53

ホームティーチャーへの提案

よく祈って準備した後、あなたが教える人々の参加を促すような方法を用いて、このメッセージを分かち合ってください。幾つかの例を以下に紹介します。

1. ゲツセマネで祈られる救い主や十字架へのはりつけ、復活して手の傷跡をお見せになる主の絵を見せる(『福音の視覚資料セット』227, 230, 234参照)。イエスは贖いの業を通してどんなに大きな賜物をわたしたちに下さったか家族に尋ねる。この賜物はわたしたちにどのように平安をもたらすでしょうか。

2. 飯田教授が示した赦しの模範について触れ、赦さなければならない人がいないか家族に考えてもらう。続いて、赦してもらわなければならない人がいないか、そして、赦してもらうために自分には何ができるか考えるように言う。

3. 家族に、飯田教授がしたように、このクリスマスに祝福をもたらしたい個人や家族がいらないか考えるように言う。

主は生きておられる

大管長会と十二使徒定員会は、
救い主イエス・キリストについて熱心に証^{あかし}してきました。
その証は、イエスが天の御父の独り子、旧約の偉大なるエホバ、
新約のメシヤであられることを証言しています。

末日の預言者、聖見者、啓示者は、個々としては6-8ページに、全体としては9ページに、救い主についての教えと主が生きておられることの証を述べています。

大管長 ゴードン・B・ヒンクレー

「全人類の救い主であり、贖^{あがな}い主である主は生きておられます。この御方の贖^{しよくざい}罪は全世界に対する恵みの行為でした。……わたしたちが自分自身で行えないことを、主はわたしたちのためにしてくださったのです。主はわたしたちの死すべき存在を意義深いものにしてくださいました。主は永遠の命という賜物^{たまもの}を授けてくださいました。……神の御子、世の贖^{あがな}い主、人類の救い主、命と平和の君、聖者なる御方を授けてくださった神に感謝しています。」（「神の御子についての証」『リアホナ』2002年12月号、4-5参照）

第一副管長 トーマス・S・モンソン

「〔イエス・キリスト〕は真理の教師です。しかし教師以上の御方です。まき生活の模範です。しかし模範以上の御方です。偉大な医師です。しかし医師以上の御方です。主は文字どおり、世の救い主なのです。……主が生きておられ、主のおかげでわたしたちも生きていけることを証します。」（「主の道」『リアホナ』2003年1月号、7参照）

第二副管長 ジェームズ・E・ファウスト

「肉体における御父の独り子として、イエスは神聖な属性を受け継がれました。イエスはこの世に生を受けた人の中で、この最も重要で神聖な業を成し得る唯一の御方でした。この地上に生きた唯一罪のない人として、イエスは霊の死に服従されませんでした。その神性により、肉体の死を克服する力も持っておられました。このようにして、イエスはわたしたちが自分ではできないことを、わたしたちのために行ってくださいました。」（「贖^{あがな}い——最も大いなる希望」『リアホナ』2002年1月号、20）

十二使徒定員会会長代理 ボイド・K・パッカー

「主イエス・キリストについて証します。主は生きておられます。主はわたしたちの贖^{あがな}い主であり、救い主であります。主がこの教会を管理しておられます。主はこの地上にいる僕たちにとって決して異国人ではなく、わたしたちが静かな確信をもって将来に向かって前進していくとき、主の御霊^{みたま}はわたしたちとともにあるでしょう。」（「キリストに穏やかに従う者」『聖徒の道』1998年12月号、24参照）

十二使徒定員会 L・トム・ペリー

「〔イエス・キリストが〕全人類のためになされた贖^{あがな}いの犠牲は、この地上における天の御父の子供たちの歴史上中心となる出来事です。神の計画を受け入れる人は、救い主の使命を受け入れ、御父がわたしたちのために定められた律法を守ると聖約します。霊と行いにおいてキリストを受け入れるなら、救いを勝ち得ることが出来ます。」（「主の晩餐^{ばんさん}の聖餐^{せいさん}」『聖徒の道』1996年7月号、65参照）





写真 © PHOTODISC 「ナザレのイエス」ハリ・マンタイン画

十二使徒定員会 デビッド・B・ヘイト

「〔イエス・キリスト〕の前世での使命やこの世での教導の業、不当な十字架の刑、苦難、最後の犠牲、そして復活について理解を深めるために全力を尽くすことは、わたしたちにとって絶対必要なことです。わたしたち一人一人は、主に対して大きな負債を負っています。主御自身が貴い血を流してわたしたちを贖われたからです。」（「ナザレのイエス」『聖徒の道』1994年7月号，80参照）

十二使徒定員会 ニール・A・マックスウェル

「わたしたちは主のくびきを負わないかぎり、イエスについての奥深い、永続する事柄を知ることはできません。主のくびきを負うなら、たとえわたしたちの経験が主の経験に比べて小さくても、必要な経験を通して、主と主の神聖な属性について詳細にわたって深く学ぶことができます。難しいことは何ともありません。わたしたちにとって実に個人的な経験となるのです。」（“Jesus, the Perfect Mentor” *Ensign*, 2001年2月号，13）



十二使徒定員会 ラッセル・M・ネルソン

「熟練した音楽家がシンフォニーの形式と構成によってその曲の作者を識別できるように、熟練した外科医は、わたしたちの姿形と構造上の類似点によって人類の創造主を認識することができます。……この類似点は、同じ創造主によって神聖な創造が行われたという一つの証拠であり、それについて深い霊的な確信を与えてくれます。」（「わたしたちの主キリストなるイエス」『リアホナ』2000年4月号、6参照）

十二使徒定員会 ダリン・H・オークス

「主イエス・キリストへの信仰があるなら、主を信頼しなければなりません。主がわたしたちにとって最良の事柄を御存じであるという確信の下に、御心^{みこころ}を喜んで受け入れるまでに主を信頼する必要があります。……救い主の次の言葉の意味が分かります。『あなたがたはわたしを信じるならば、わたしの心にかなうことを何事でも行う力を持つであろう。』（モロナイ7：33）」（「主イエス・キリストへの信仰」『聖徒の道』1994年7月号、108-109参照）

十二使徒定員会 M・ラッセル・バラード

「永遠の父なる神とその御子イエス・キリストは、再び天から人類に語られ、完全な永遠の福音を教えるために預言者と使徒を召されました。これほど栄えある知識はありません。……この知識は、わたしたちが進む人生の旅路を安全な方向へ向けてくれます。福音の教えにしっかりとつながっているための錨^{いかり}となるからです。」（“Steadfast in Christ” *Ensign*, 1993年12月号、50）

十二使徒定員会 ジョセフ・B・ワースリン

「わたしたち全員が参加していた前世の会議のとき、〔救い主は〕サタンとその軍勢に対抗するために、善い霊の軍勢を指揮して、人の救いのために戦われました。その戦いは、この世界が形作られる以前に始まったもので、今でも続いています。わたしたちはそのとき、皆イエスの側についていました。そして今なおイエスの側についています。」（「信仰にも行いにもクリスチャンである」『聖徒の道』1997年1月号、80参照）

十二使徒定員会 リチャード・G・スコット

「救い主は生きておられます。主は復活され、完全な愛を持った栄光ある御方です。わたしたちが主とともに永遠に生きられるように、主が御自身の命を与えてくださったことを証します。主はわたしたちの望みであり、仲保者、贖い主であります。」（「主は生きておられる」『リアホナ』2000年1月号、106参照）

十二使徒定員会 ロバート・D・ヘイルズ

「イエス・キリストは……ゲツセマネの園とゴルゴタの上において成就された贖いの光であって、全人類が永遠の救いにあずかれるように世の罪を御自身に受けられました。主は、空になった墓の光です。……主はわたしとそして皆さんの光であり、贖い主であり、救い主です。」（「闇を出て、驚くべき主の光の中へ」『リアホナ』2002年7月号、79）

十二使徒定員会 ジェフリー・R・ホランド

「わたしは神の愛と、嵐^{あらし}をお鎮めになる救い主の力を証します。〔ペテロが水の上を歩いた〕あの聖書の物語を読むとき、その場に〔キリストが〕おられたことをいつも忘れないでください。……この不吉な波と闘ってこられた御方だけが、海に向かって言われたように、わたしたちにも『静まれ』〔マルコ4：39〕とすることがおできになるのです。そうした逆境を全身で受け止められた御方であられるからこそ、『勇気を出しなさい』〔ヨハネ16：33〕とおっしゃることができるのです。」（『すでに現れた祝福の大祭司』『リアホナ』2000年1月号、43参照）

十二使徒定員会 ヘンリー・B・アイリング

「イエス・キリストは世の光であり命であられます。主の方へ向かうことを選んでいないのであれば、主から離れていることに気づくでしょう。……主をいつも覚えるために戒めを守ることを選択するかどうかにかかわらず、主はいつも皆さんを覚えておられます。」（“Always” *Ensign*, 1999年10月号、12）■

生けるキリスト

使徒たちの証

末日聖徒イエス・キリスト教会

2000年前のイエス・キリストの降誕を祝うに当たり、わたしたちはイエス・キリストのたぐいまれな生涯が現実のものであり、この御方の偉大な贖いの犠牲が無限の力を有することを証します。これまでに地上に生を受けた人々およびこれから生を受けるすべての人々に対して、この御方以上に深遠な影響を及ぼしてきた人物は存在しません。

イエス・キリストは旧約の大いなるエホバであり、新約のメシヤでした。御父の指示の下に、イエス・キリストは地球を創造されました。「すべてのものは、これによってできた。できたもののうち、一つとしてこれによらないものはなかった」のです（ヨハネ1:3）。イエス・キリストは罪がなかったにもかかわらず、すべての義を成就するためにバプテスマをお受けになりました。イエス・キリストは「よい働きをしながら……巡回」されました（使徒10:38）、そのためにさげすまれました。イエス・キリストの福音は平和と善意のメッセージでした。イエス・キリストはすべての人々に、御自身が示す模範に従うよう熱心に勧められました。イエス・キリストは病人を癒し、目の不自由な人々の目を見えるようにし、死人をよみがえらせながら、パレスチナの道を歩まれました。また、永遠の真理と、前世が実際に存在すること、この世での人生の目的、および神の息子や娘が持つ来世における可能性についてお教えになりました。

イエス・キリストは、御自分の偉大な贖いの犠牲を思い起こすためのものとして、聖餐をお定めになりました。イエス・キリストは捕らえられ、偽りの訴えによってとがめられ、暴徒の意に応じて有罪とされ、カルバリの十字架での死刑を宣告されました。そして、全人類の罪を贖うために命をささげられました。イエス・キリスト御自身が、地上に生を受けるすべての人々のための偉大な身代わりの贈り物となられたのです。

わたしたちは、全人類の歴史の中心であるイエス・キリストの生涯が、バツレヘムで始まったのでもなければカルバリで終わったのでもないことを厳かに証します。イエス・キリストは御父の長子、肉における独り子、世の救い主でした。

イエス・キリストは「眠っている者の初穂として」墓からよみがえられました（1コリント15:20）。そして復活された主として、地上での生涯において愛した人々のもとをお訪ねになりました。また、古代アメリカの「他の羊」の間でもお教えになりました（ヨハネ10:16）。現代においては、御父とともに少年ジョセフ・スミスに御姿を現されました。こうして、長い間約束されてきた「時の満ちる」神権時代が到来したのです（エペソ1:10）。

生けるキリストについて、預言者ジョセフはこのように記しています。「その目は燃える炎のようであり、その頭髮は清らかな雪のように白く、その顔は太陽の輝きに勝って光り輝いていた。また、その声、すなわちエホバの声は大水の奔流のとどろきのようで、このように言われた。

『わたしは最初であり、最後である。わたしは生きている者であり、殺された者である。わたしは父に対するあなたがたの弁護者である。』（教義と聖約110:3-4）

イエス・キリストについて、預言者ジョセフはまた次のように宣言しています。「そして今、小羊についてなされてきた多くの証の後、わたしたちが最後に小羊についてなす証はこれである。すなわち、『小羊は生きておられる。』

わたしたちはまことに神の右に小羊を見たからである。また、わたしたちは証する声を聞いた。すなわち、『彼は御父の独り子であり、

彼によって、彼を通じて、彼から、もろもろの世界が現在創造され、また過去に創造された。そして、それらに住む者は神のもとに生まれた息子や娘となる』と。」（教義と聖約76:22-24）

わたしたちは、イエス・キリストの神権とイエス・キリストの教会が地上に回復されたこと、そしてその教会は「使徒たちや預言者たちという土台の上に建てられ……キリスト・イエスご自身が隅のかしら石である」ことを厳粛に宣言します（エペソ2:20）。

わたしたちは、イエス・キリストがいつの日か地上に戻って来られることを証します。「こうして主の栄光があらわれ、人は皆ともにこれを見る」のです（イザヤ40:5）。イエス・キリストは王の王として治め、主の主として統治されます。イエス・キリストの前にすべてのひざかががみ、すべての舌がイエス・キリストを賛美することでしょう。わたしたち一人一人は将来、自分の行いと心の望みについて裁きを受けるためにイエス・キリストの前に立つこととなります。

わたしたちは正式に聖任を受けたイエス・キリストの使徒として証します。イエスは生けるキリスト、不死不滅の状態にある神の御子です。イエス・キリストは今日、大いなる王、インマヌエルとして御父の右に立っておられます。イエス・キリストは世の光、命、そして希望です。イエス・キリストの道は、この世においては幸福に、後の世においては永遠の命に至る道です。わたしたちは御子という比類ない贈り物を授けてくださった神に感謝しています。

大管長会

十二使徒定員会

2000年1月1日



神の手

十二使徒定員会

M・ラッセル・バラード

わたしは経験から、霊的に苦しむ人の心の傷は、皆さんやわたしが個人的にもう少し努力してその人に働きかけをすれば癒される^{いや}ということを学びました。

イエス・キリストは、霊的な病であれ、肉体的な病であれ、どんな病をも癒す力を有しておられます。ルカによる福音書に記されているように、ある女性はイエスの衣のふさに触ただけで癒されました。

「しかしイエスは言われた、『だれかがわたしにさわった。力がわたしから出て行ったのを感じたのだ。』

女は隠しきれないのを知って、震えながら進み出て、みまえにひれ伏し、イエスにさわった訳と、さわるとたちまちなおったことを、みんなの前で話した。

そこでイエスが女に言われた、『娘よ、あなたの信仰があなたを救ったのです。安心して行きなさい。』(ルカ8:46-48)

主は皆さんやわたしを通じて人々の生活に触れられるのでしょうか。そのとおりです。主はわたしたちが自らの役割を果たすかぎりそうされるのです。

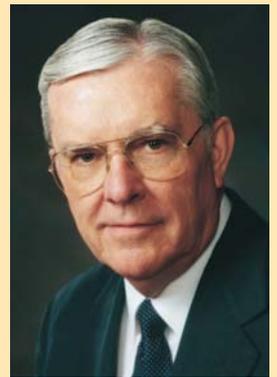
自らの役割を果たす

ある若い女性の教師のクラスには、目の見えない少女がいました。この少女は普通の方法では学べないため、レッスンに十分参加できませんでした。そこでこの教師は少女の家に行き、『成長するわたし』を声に出して読み、少女が点字に訳すのを手伝いました。これには2年かかりました。またこの教師は、クラスのほかの少女たちにも助けを求めました。こうして教師の指示の下、彼女たちは目の見えない少女の家に行ってはテキストを読み、点字訳を手伝ったのです。

この教師を通して差し伸べられた主の手は、この少女だけでなく、目の不自由な大勢の人々にも恵みをもたらしました。この点字訳が、若い女性の中央組織を通じて入手できるようになったからです。

小さな体、大きな心

時として、救い主の手は、大きな心を持った小さな子供を通して差し伸べられます。ある美しい女性が宣教師から福音を学んでいました。しかし、どうしてもバプテスマを受ける決意ができませんでした。ある日曜日、彼女はよく知らないあるワードの^{せいさん}聖餐会に出席してみることにしました。一人でじっくりと考えられる場所に座りたいと思ったこの女性は、小



主は皆さんやわたしを通じて人々の生活に触れられるのでしょうか。そのとおりです。主はわたしたちが自らの役割を果たすかぎりそうされるのです。



教会本部を出ようとしたとき、わたしたちはキンボール大管長の姿を見ました。するとこの若者はこう尋ねました。「キンボール大管長は、ぼくのような若者とも話してくれるでしょうか。」彼にとって、キンボール大管長とのわずかな時間は、忘れることのできないものとなりました。大管長の口から出る教えは永遠の教えであり、この若者に向けられた愛は心からのものでした。

な男の子の隣に腰を下ろしました。聖餐が配られているとき、この男の子は隣の女性が聖餐のパンを取らなかったことに気づきました。そこで聖餐のトレイが自分のところに来たとき、少年はパンを一かけら取り、それを注意深く二つに裂き、半分をこの女性に渡したのです。彼女は、子供がそのような心のこもった親切な態度を示せることに深く感動しました。そしてその日のうちに宣教師と連絡を取り、こう言いました。「あなたたちの教会で子供にこのように教えているのであれば、わたしは会員になりたいと思います。」

母親の死を受け止められるよう

主はニーファイ人にこう教えられました。「あなたがたの光を掲げて、世の人々に輝き渡るようにしなさい。見よ、あなたがたの掲げる光とは、わたしである。」(3ニーファイ 18:24) 永遠の伴侶^{はんりよ}を失ってまだ間もない親友を訪れたとき、主の光が、それをだれよりも必要としている人に注がれるのを見ました。わたしは親友に尋ねました。「わたしに何か助けられることはあるかい。」すると次のような答えが返ってきました。「息子が母親の死を受け止められるよう助けてくれないか。」親友の息子は母親をこの上なく愛していたからです。何か月にもわたって母親の苦しむ姿を見ていた息子は、祈ってもこたえられない、神権の祝福も効果がないと思い始め

ていたのです。そのため、天の御父に対する信仰は揺らぎ、生活の中に主の光が見いだせなくなっていました。

「息子が母親の死を受け止められるよう助けてくれないか。」彼の言葉が頭の中にこだましました。「どうすればよいのだろう。」わたしは自分自身にそう問いかけました。思案の末、わたしは親友の息子を教会本部に招き、話をすることにしました。彼が来るとわたしは食堂に案内しました。食事中、何とも珍しいことが起こりました。話をしていると、何人もの中央幹部がわたしたちのテーブルのわきを通り、わたしたちにあいさつして行ったのです。結局彼は、十二使徒のうち8人と握手を交わしました。わたしはそれまでもそれからも、十二使徒が一度にあれほど多く食堂にいたのを見たことはありません。

教会本部を出ようとしたとき、またも珍しいことが起きました。キンボール大管長(1895-1985年)の姿を見たのです。この若者はこう尋ねました。「キンボール大管長は、ぼくのような若者とも話してくれるでしょうか。」するとさらに珍しいことが続きました。彼は数分間にわたって、キンボール大管長と話すことができたのです。わずかな時間でしたが、彼にとって忘れることのできないものとなりました。大管長の口から出る教えは永遠の教えであり、この若者に向けられた愛は心からのものでした。このわずかな間に、彼とわたしの心は強く動かされました。

愛を込めてこの若者を抱き締めた後に、キンボール大管長が言った言葉は、彼の心に響きました。こう言ったのです。「君が伝道を終えて帰って来たときには、今一緒に話したことがもっとよく理解できるようになるでしょう。」その日、神の預言者は、預言者にしかなし得ないだろうと思われる方法で手を差し伸べました。キンボール大管長を通して、救い主はこの若者の心に触れ、主の光の方向に向かわせられたのです。

駐車場に戻ると、わたしはこの若者の肩を抱いてこう言いました。「お母さんは、君が

きょう 今日ここに来ていることを知っているよ。お母さんが主を愛し、主に献身的に仕え、そして君を心から愛しているから、天のお父様は、君がお母さんの存在を感じられるようにしてくださったんだよ。」彼の目から涙があふれました。こうして彼の態度は変わり、人生の方向もはっきりと定まって、決意をすることができました。

さらにうれしいことに、数か月後、この立派な若者が専任宣教師として忠実に、しかも熱心に働いていることをキンボール大管長に報告できました。

救い主の手

最後に、主がわたしたちの信仰と祈りを通して、どのように個人の生活に手を差し伸べられるか話したいと思います。息子のところにかわいい女の子が生まれたのですが、5か月にもたないうちに地上を去りました。その子に対する両親の愛と心の配りように強く心を打たれました。しかし、懸命に生きようとする孫娘の姿は見るに忍びないものでした。彼女が息を引き取る前の晩、わたしたち夫婦は病院に駆けつけ、息子たちにとってできるかぎり力になろうとしました。

その晩遅く、妻とわたしは、息子の家で彼とともにひざまずき、導きを求めて祈りました。病院に戻ると、わたしは小さな孫娘の手を取ってその姿を見詰めました。そのとき、わたしは救い主の手を感じたのです。まるで孫娘が語りかけているかのように、心にこのような言葉が浮かんできました。「おじいちゃん、心配しないで、わたしは大丈夫よ。」平安が心に広がりました。主の手がわたしたちのうえに差し伸べられたのです。やがて孫娘は苦しみから解かれ、天の両親のもとへ旅立って行きました。

わたしたちは確かに救い主の手を感じることができ、周りの人が主の手を感じるよう助けることもできます。道をそれた青少年や教会に来ていない成人、伴侶に先立たれた人、年配の人、病気の人、また会員かそうでない

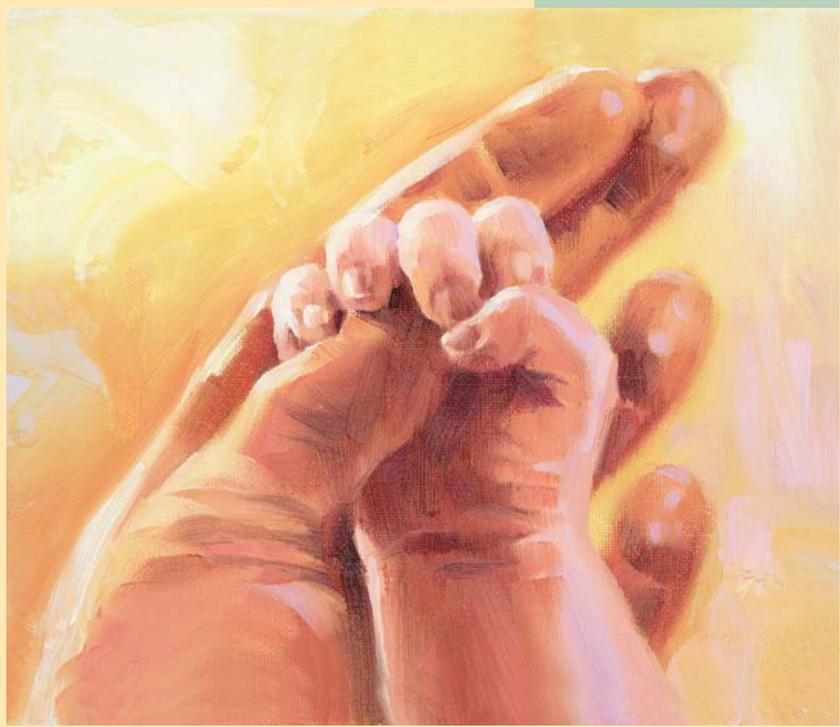
かを問わず、神のすべての子供たちに手を差し伸べることによって、互いに恵みにあずかることができるのです。

わたしたちは個人の生活にあって、福音の祝福と主の平安を感じ取ることの大切さをぜひとも認識する必要があります。隣人の益のために救い主の手が差し伸べられるようにするならば、互いを祝福することができます。

皆さんの多くが周りの人々の必要をよく心に留めていることを知っています。そして皆さんにもわたしにも、もっと多くのことができるはずですよ。奉仕を通して人の生活に喜びの手を差し出さずに一日を過ごすことのないようにしようではありませんか。そうすれば、次に挙げる救い主の麗しい訓戒が心にしみわたったり、その価値を知ることができるでしょう。「あなたがたによく言うておく。わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである。」(マタイ25:40) ■

この話は、1980年10月の総大会説教を基に書かれました。

小 さな孫娘の手を取ってその姿を見詰めたとき、わたしは救い主の手を感じました。まるで孫娘が語りかけているかのように、心にこのような言葉が浮かんできました。「おじいちゃん、心配しないで、わたしは大丈夫よ。」





家族を強める

家族は創造主の計画の 中心を成すものである

このシリーズは、「家族——世界への宣言」の
個人的な学習と活用へのヒントを与えるためのものです。

「わたしたち、末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長会と十二使徒評議会は、男女の間の結婚は神によって定められたものであり、家族は神の子供たちの永遠の行く末に対する創造主の計画の中心を成すものであることを、厳粛に宣言します。」¹

家族を破壊しようとする力

社会の最も基本的な単位である家族は、あらゆる側面から脅かされています。姦淫^{かんいん}、離婚^{りこん}、同棲^{どうせい}、子供や伴侶^{はんりよ}への虐待、同性愛、墮胎、10代の妊娠、ポルノグラフィ^{ポルノグラフィ}、不従順な子供たち、家計の困窮、子供の出産と育児



に非意欲的な夫婦の増加……。こうしたすべての事柄を含む多くの事例から分かることは、神の子供たちの行く末に家族が中心的な役割を果たしていることをサタンが非常によく理解しているということです。

十二使徒定員会のロバート・D・ヘイルズ長老はこう語っています。「永遠の幸福の計画において家族がきわめて大切な位置にあるため、サタンは家族の神聖さを打ち破ろうとして躍起になっています。男女の役割の重要性をおとしめ、不道徳な行為をするようそそのかして神聖な純潔の律法を破らせ、子供を産み育てる務めを最優先させないように親た



「この世において、
家族の創造と
完成以上に
大切なものはない。」

ちをけしかけています。』²

そのような状況にあっても恐れる必要はありません。神がともにおられるからです。最終的には善が悪に打ち勝つことでしょう。しかしながら、この世の人生においてわたしたちは、前世から始まったこの戦いの前線にしっかりと立ち、家族の神聖さを維持し守り抜くためにできるあらゆることをしなければなりません。

結婚は神によって定められたものである

最初にわたしたちにできること、そしてしなければならないことは、自分自身も子供たちも、家族を永遠に結び固める神殿の儀式に備えることです。十二使徒定員会会員であったブルース・R・マッコスキー長老（1915-1985年）はこう教えています。「この世に生を受けたその瞬間から、神殿で結婚するそのときまで、わたしたちが教えられる福音の体系というものは、どの部分を取ってみても、結婚の神聖なきずなに入るための準備と資格獲得のために備えられたものである。そのきずなによって、わたしたちはこの世においても、来世においても、夫婦であり続けることができる。……この世において、家族の創造と完成以上に大切なものはない。』³

神殿結婚は永遠に存続し得る新しい存在である永遠の家族の始まりです。ですから最も大切なことは、夫と妻が主の宮で交わす聖約を守ることです。ジョセフ・フィールディング・スミス大管長（1876-1972年）はこう述べています。「教会の律法に沿って執行される結婚は、最も神聖な儀式である。聖約を守るならば、二人は神の王国において完全な昇栄を得るであろう。』⁴

永遠の救い——それは家族で行う務めである

十二使徒定員会会員のダリン・H・オークス長老はこう語っています。「永遠の救いの完成は家族で行う務めです。福音の計画は、永遠の家族の会議において始められたものであり、地上の家族を通して実施され、永遠の家族となることで成就します。』⁵

「家族のもとに誕生すること、それは神がその霊の子供たちを地上に送るために取られた方法であり、結婚と家族

関係こそが、神が御自身の目的を達成するために備えられた中心的な方法である。わたしたちは、エデンの園のような完全な世界においてではなく、チャレンジや反対、苦難や誘惑（2ニーファイ2：11参照）に直面する状況の下で人生の教訓を学ぶのである。』⁶したがってわたしたちは、この時代の困難な事柄に恐れを抱くのではなく、むしろそれらを信仰が強められ、従順さが洗練される環境として見るべきです。前七十人会長会会員であるジョー・J・クリステンセン長老はこう述べています。「一生懸命努力したことがないまま、まことの偉大さを身に付けた人が一体何人いるのでしょうか。』⁷

家族は神の計画の中で、わたしたちが悪に対抗し、弱点を克服して救いを達成するうえで助け手となる基本的な支援組織です。したがって、混乱と敵対の世の中で家族を強めるためにできるあらゆることをしなければなりません。

失意に満ちた世界における希望

サタンとその使いたちは、家族を破壊しようと働きかけるので、多くの人々が堅固で愛情のある家族が提供できる喜びと祝福を見失っています。回復された福音の教えと儀式がかけがえのない希望の灯台のように光り輝くのは、そのような暗闇くらやみにいる人々の中です。福音の揺るぎない土台の上に家族を築くとき、わたしたちの光は輝きを増し、墮落した世界では得られない希望と幸福を探し求めている人々を引きつけることでしよう。■

注

1. 「家族——世界への宣言」『リアホナ』2004年10月号, 49, または『聖徒の道』1998年10月号, 24
2. 「永遠の家族」『聖徒の道』1997年1月号, 73
3. Conference Report, 1970年4月, 27
4. 『救いの教義』ブルース・R・マッコスキー編, 全3巻(1954-1956年), 第2巻, 76
5. “Parental Leadership in the Family” *Ensign*, 1985年6月号, 7
6. ダニエル・K・ジャッド, ガイ・L・ドリラス, デビッド・C・ドラハイト, “Families and the Great Plan of Happiness” デビッド・C・ドラハイト編, *Strengthening Our Families: An In-Depth Look at the Proclamation on the Family* (2000年), 8で引用
7. 「貪欲, 利己心, 甘やかし」『リアホナ』1999年7月号, 9

クリスマスの クロスステッチ

母はクリスマスの時節に亡くなりました。
それでもわたしたちは再び平安を感じることができると分かったのです。

デビッド・トーイ

わたしは新米の父親です。そして恐らく今までにも増して、永遠の家族を求め、必要としています。

永遠の家族という原則は、生まれる前からすでにわたしの人生を違ったものにしていました。父からプロポーズされたとき、母は神殿結婚以外考えられないと父に手紙で伝えました。そのときの手紙は家族にとって、とても大切なものとなっています。手紙の一部を紹介しましょう。

「神殿結婚は永遠で、死を超えて続きます。神殿で結婚して聖約を守る両親のもとに生まれる子供たちは、天で再び両親と一緒になれます。家族という単位は永遠に続きます。スティーブ、あした太陽が昇るのを知っているのと同じように、わたしはそれが真実だとはっきり確信しています。わたしは天の御父がわたしを愛し、あなたを愛しておられることを信じています。そしてそれと同時に、神は真理の神であり、約束を守られる御方なので、ほかのどのような関係も死を超えて存続させることがおできにならないということも、わたしは信じているのです。

スティーブ、知り合ってからたった2年半でこれほどあなたを愛するようになったのですから、これから先、あなたはわたしにとってますます大切な人になっていくでしょう。だからこそ、今、神殿外の結婚がもたらす結果に耐えられなくて結婚に応じることができないとすれば、時がたてばたつほど、そのような結果にますます耐えられなくなることでしょう。

神の聖約がなければ、二人が生活を築き上げていっても、突然の悪夢によって引き裂かれてしまうだけです。それでは心に平安がありません。」

この言葉で、父は教会に入る必要性をさらに感じるようになりました。母は結婚を決意し、両親は神殿で永遠に結び固められました。父の証は、神殿結婚を通して得られる平安によって強まっていきました。そしてその平安が何年も後に、非常に意味深いものとなるのです。

1987年12月19日、土曜日の
早朝、わたしたち家族
は自家用ワンボックス
ス車に乗り込みま





した。アイダホ州
シェリーからユタ州ソルト
レーク・シティーまで4時間かけて行き、クリス
マスの買い物をし、ライトアップされたテンプル
スクウェアを見ることになっていました。それは
いつもの事のように思われました。わたした
ちは以前にも何度かそのようにして出かけてい
たので、わたしは後ろの席に座るとすぐに眠っ
てしまいました。

すると、1時間もたたないうちに、車が左右
に揺れ始め、恐怖の中で目を覚ましました。そ
して突然、わたしは車の外に放り出され、仰向
けの状態に雪に覆われた道端にたたきつけら

れたのです。この事故が起こる直前に1歳の妹
への授乳を終えた母は、妹をチャイルドシート
に寝かせてシートベルトを締めたものの、自分
のシートベルトを締めていませんでした。わた
しは上体を起こして腰をさすり、車が遠くに転
がっていく音を聞きながら、眠りにつく直前の
状況を思い出そうとしていました。

回転していた車がようやく止まり、一瞬静か
になりました。めちゃくちゃになった車を見て、
ようやく何が起きたか把握し始めました。しか
しまだそのときには、この惨劇の大きさを理解

1歳の妹が
最初の
プレゼントを
選び、父が
代わりに開けると、
中には母が用意した
額入りの
クロスステッチが
入っていました。
そして
「わたしたちの
愛の輪は永遠です」
という言葉が刺しゅう
されていたのです。



ジョセフ・スミス
「アルビン・キッティン」画

**わたしは預言者
ジョセフ・
スミスの
次の慰めの言葉に
ついてよく思いを
巡らせます。
「ここでわたしたちの
間にある交わりが、
そこでもわたしたちの
間にある。
ただし、その交わりには、
わたしたちが今
享受していない
永遠の栄光が伴う。」**

していませんでした。

軽い捻挫をしたわたしは、ひどく混乱しながら大破した車と家族の方へ歩いて行きました。皆けがをしていました。タイヤに背をもたせて座っていた母に近づき、具合を尋ねました。母は「分からないわ」とあいまいに答えましたが、おびえていたわたしにはそれだけで十分でした。

数分後、ヘリコプターが救助に駆けつけ、母と5歳の弟ジョッシュを近くの病院に搬送しました。救急車も2台到着し、わたしはそのうちの1台に自力で乗り込みました。残りの家族も全員けがをしていて、緊急処置室に搬送されました。わたしは背中にかすり傷を負っただけで、いちばん軽症でした。

家族はそれぞれ検査室に運び込まれ、治療を受けました。1時間くらいしてから、父の要請でわたしたちは病院の小さな部屋に呼ばれました。治療を一時中断して来た家族を見渡ししながら、わたしはこのまったく予期していなかった事故が及ぼす影響について、心配し始めました。家族のうち二人、ジョッシュと母がいませんでした。後で分かったことですが、そのときジョッシュは意識不明の重態だったのです。

そこで父が語った言葉を、わたしは決して忘れることはないでしょう。

「お母さんは死んだんだ。」父は涙声でつぶやきました。

わたしの心は沈み、目には涙があふれました。父の言葉を飲み込もうとしていたわたしたちは、しばらくだれも口を開きませんでした。

「だれが御飯を作ってくれるの？」9歳のサラが尋ねました。

父自身つらかったと思いますが、そのとき考えた最良の慰めの言葉として、父はこのように言いました。「分からないけど、みんなで何とかしよう。」

事故からわずか6日後にやって来たその年のクリスマスはいつものクリスマスとは違っていました。ジョッシュが回復して家族のもとに戻って来るのを待つために、クリスマ

スのお祝いを延期しました。そしてわたしたちにとっての特別なクリスマスの朝、7人のきょうだいとわたしは、父とともにツリーを囲んで座り、プレゼントを開けることにしました。家族の伝統として、末っ子の1歳の妹が最初のプレゼントを選び、開けました。妹は母が亡くなる前に家族のために用意しておいたプレゼントを選びました。

父が包装紙を取ると、中には額に入ったクロスステッチが入っていました。そこには「わたしたちの愛の輪は永遠です」という言葉が刺しゅうされていました。この短い言葉に込められた真理は、試練の中にいたわたしたちに平安を与えてくれました。以来、この言葉の奥にある意味によって、わたしたちは結ばれています。わたしたちは母に再会できると知っています。

あれから17年近くがたち、自分自身の家族を築こうとしているわたしは、永遠の家族というものが、力強い真理であることを痛感しています。今や、常にふさわしくありたいという気持ちを思い起こさせてくれるのは、再び母と会いたいという望みだけではなく、妻と幼い息子と永遠に住みたいという望みもあるからです。

わたしは預言者ジョセフ・スミスの次の慰めの言葉についてよく思いを巡らせます。「ここでわたしたちの間にある交わりが、そこでもわたしたちの間にある。ただし、その交わりには、わたしたちが今享受していない永遠の栄光が伴う。」(教義と聖約130:2)

何年も前に包装紙の中から出てきたクロスステッチは、家族の居間の壁に掛けられたままです。それを見れば、わたしやわたしのきょうだいは大好きな母のことを思い出し、天の御父から与えられた神聖な計画に普遍的な希望を見だし、救い主イエス・キリストの犠牲によって可能となった永遠の家族という約束から平安を得るのです。■

デビッド・トイはケンタッキー州レキシントンステーキ、テッククリークワードの会員です。

自らを ささげなさい

わたしから
あなたへ



自分のことばかり考えてしまうのを避けるいちばんの方法は、
時間や才能を用いて人に助けの手を差し伸べることです。
(使徒20:35参照)



どうしたら あかし証できるでしょう



ヨーロッパ中央地域
地域幹部七十人
ハンス・H・マットソン

長い年月にわたって、
エテル書に記された
この言葉から
放たれる力を感じ、
大いなる感謝の念を
抱いてきました。

何年も前になりますが、わたしと双子の兄弟はイギリスで専任宣教師として主に仕えるため、故郷スウェーデンのエーテボリを後にしました。ロンドンへ向かう飛行機の中で、様々な思いが頭の中をよぎりました。一つは、双子の兄弟とロンドンで離れ離れになるということでした。毎日一緒にいられないというのは、それまでの人生で初めてのことだったからです。しかし最も心配だったのは、英語がよく分からないということでした。当時スウェーデンから伝道に出る宣教師は、言語も含め何の訓練も受けずにそのまま伝道地に赴任することになっていました。言語の才能に恵まれた双子の兄弟のことを思いました。わたしは技術的な科目に興味があったため、学校ではあまり外国語の勉強をしなかったのです。

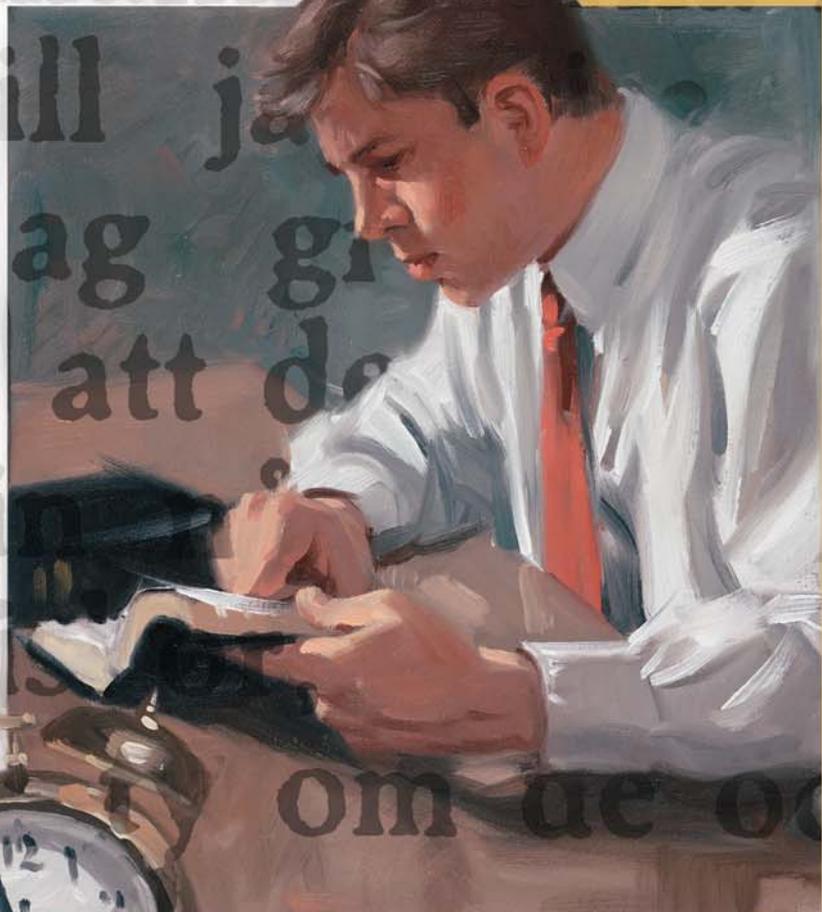
ロンドンに到着し、ようやくイギリス中央伝道本部のあるパーミンガムに着くと、伝道部長と姉妹が満面の笑みとあふれるばかりの優しさで迎えてくれました。伝道本部で会う人はだれも幸せそうで熱意にあふれ、学習ガイドや戸別訪問、同僚などのことについて話

してくれました。しかし彼らの話す英語は、わたしにとってはまるで耳慣れない外国語で、ほとんど理解できませんでした。

周囲の人が親切にしてくれるのにもかかわらず、わたしは押しつぶされそうでした。このまったく分からない言葉で、どうやって福音について証あかしできるのでしょうか。最初の晩、ほとんど寝ずに祈りました。天の御父に、なぜわたしをここに遣わされたのか、あるいはそれは間違いだったのではないかと尋ねたのです。

翌日、伝道部長補佐の一人がある聖句を見せてくれました。エテル書第12章27節です。わたしはスウェーデン語のモルモン書を取り出して読みました。「もし人がわたしのもとに来るならば、わたしは彼らに各々の弱さを示そう。わたしは人を謙遜けんそんにするために、人に弱さを与える。わたしの前にへりくだるすべての者に対して、わたしの恵みは十分である。もし彼らがわたしの前にへりくだり、わたしを信じるならば、そのとき、わたしは彼らの弱さを強さに変えよう。」(エテル12：27)

もし弱さを持つ人がいるとすれば、それはわたしでした。幾つかの問いかけが思い浮かびました。「この聖句に書かれていることを信じますか。」「もし信じているなら、ここで言われているような信仰を表す勇氣を持って



いますか。」「あなたの弱さが強さとなるように、主の前にへりくだることができますか。」

そのとき脳裏に浮かんできたのは、わたしと双子の兄弟が10代のころ、父から、親の信仰に頼るのではなく自分自身の証を築くようにと言われたときのことでした。わたしは父の勧めに従うことにしました。注意深くモルモン書を読み、思い巡らしました。それから自分が読んだことが真実かどうかを、天の御父に祈りの中で尋ねました。またジョセフ・スミスが、自ら語ったように神聖で偉大な啓示をほんとうに見聞きしたのか尋ねました。

祈りの答えとして、主の御霊が注がれました。心は熱く燃え、わたしが読み、天の御父に尋ねたことは真実であるという確認を受けました。ついに、モルモン書の証と、福音が預言者ジョセフ・スミスを通して回復されたことに対する証をわたしは持っていると言断言することができました。

悩める若い宣教師だったわたしは、この経験を思い返し、モルモン書が真実であるという確認を主から受けたのだから、エテル書に書かれていることも真実であることがはっきり分かりました。天の御父の前にへりくだってひざまずき、自分の召しについて、また言葉の面での弱さについてほんとうの気持ちを天の御父に話しました。そして、毎朝早く起きて、70ページのレッスンと人に教える際に使う聖句を暗記することを約束しました。またそれを行うなら、英語を学ぶのを御父が助けてくださり、天の御父と御子について証できるようにして下さるという信仰があることを主に話しました。



それからというもの、毎朝早く起きて、天の御父にこう祈りました。「準備が整いました。始めましょう。」その後比較的短い間に、エテル書の聖句が真実であることを証できるようになりました。伝道を始めたときには弱点だった英語を話す能力が、強さとなったのです。

この経験は、人生においてずっと祝福とになってきました。新しい教会の召しが自分の能力を超えていると思ったことが何度もありました。そのようなときには御霊が証し、若い宣教師としてイギリスで伝道していたときの経験を思い出させてくれました。長い年月にわたって、エテル書に記されたこの言葉から放たれる力を感じ、大いなる感謝の念を抱いてきました。御霊の力を通して、その言葉はわたしたち一人一人に、力と導きと希望を与えてくれるのです。■

毎 朝早く起きて勉強することを天の御父に約束しました。御父がそれにこたえて、英語を学ぶのを助けてくださるという信仰がありました。



キリストのもとに 来る



七十人
ロバート・R・スタイアー

なぜキリストのもとに
来るのだろうか。
その道はどのように
見いだせるのだろうか。
自分が
正しい道にいることは
どのように
分かるのだろうか。

モルモン書にふさわしい、素晴らしい結びの言葉として、預言者モロナイはわたしたちに「キリストのみもとに来」るようにと勧めています(モロナイ10:30, 32)。この切実な訴えの意味について思い巡らしていたとき、次のような問いかけが心に浮かんできました。なぜキリストのもとに来るのだろうか。その道はどのように見いだせるのだろうか。自分が正しい道にいることはどのように分かるのだろうか。

なぜキリストのもとに来るのか

世の中には多くの選択肢があり、その人やその物の「もとに来る」ように誘いかけています。宗教や哲学、社会形態、政治的イデオロギー、また仕事上の関心事あるいは個人的な興味など、多種多様のものが、わたしたちの忠誠心を取りこにしようとまくし立てています。多くの人は、天へと続く道は数多くあり、どの道を通って行こうと大して変わりはないと信じています。

イエスが地上で教えを説かれたとき、何千という人々がイエスに従って来た時期がありました。恐らくそれは、単に好奇心から、あるいは何か欲しかったためだと思われます。主は5つのパンと2匹の魚で彼らに食物を与え、「わたしは命のパンである」と教えられました(ヨハネ6:48)。しかし、従順さが求められることを知った多くの人は、もはや主のもとに来ることを

選びませんでした。イエスは十二使徒に「あなたがたも去ろうとするのか」とお尋ねになりました(67節)。

ペテロは答えて言いました。「主よ、わたしたちは、だれのところに行きましょう。永遠の命の言ことばをもっているのはあなたです。わたしたちは、あなたが神の聖者であることを信じ、また知っています。」(68-69節)

なぜキリストのもとに来るのでしょうか。簡単に言えば、ほかのあらゆる道は永遠の命に通じていないからです。イエスは大胆にも次のように言われました。「わたしは道であり、真理であり、命である。だれでもわたしによらないでは、父のみもとに行くことはできない。」(ヨハネ14:6)

聖文は「清くない者は、〔神がおられる聖なる場所に〕入ることができない」とはっきり告げています。清くなるには、——「終わりの日に……染みのない状態で立」つためには、——イエス・キリストの贖あがないの血によって清められなければなりません(3ニーファイ27:19-20参照。モロナイ10:33も参照)。キリストは、御父のもとに来るための唯一の名であり、道であり、手段なのです(モーサヤ3:17;ヒラマン5:9参照)。

わたしたちは、人生の重要な答えを得るために、本来ならば救い主に目を向け、聖霊の導きを求めるべきところを、ほかの場所——ほかの人やほかの事柄——に目を向けることがあります。キリストに目を向け、心の内にある気高い思いに従う決心をするとき、わたしたちは神の性質を身に付け始めます。デビッド・O・マッ

ケイ大管長(1873-1970年)はこう言いました。「キリストについて心の中で真剣に考えていることが、あなたが現在どんな人物か、そして将来どのような行動を取るかを決定します。」¹

どのように道を見いだせるか

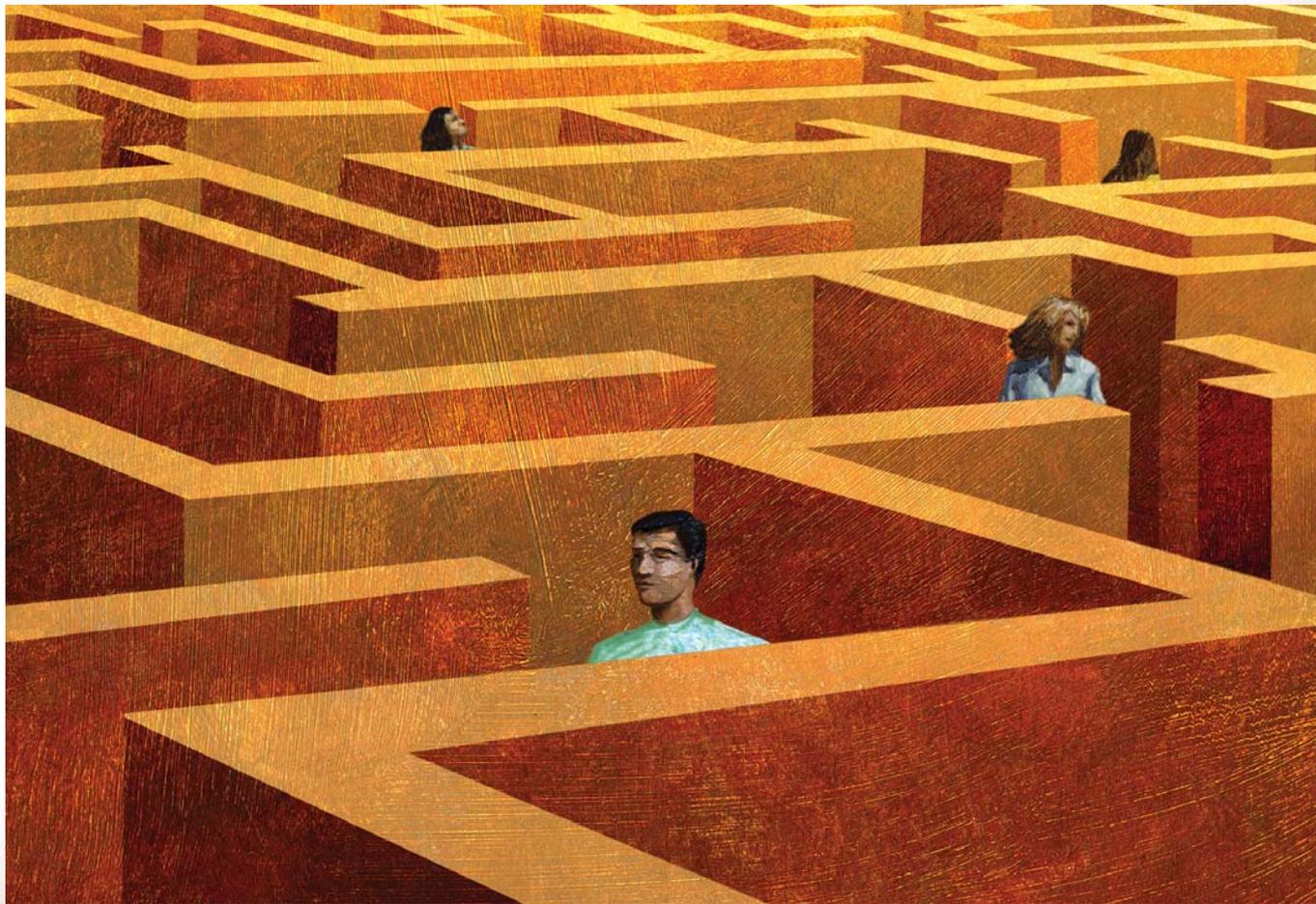
神聖な計画の下で、わたしたちは常に重要な決断に迫られるようになっていきます。次のように自問することがあるかもしれません。「なぜこんなに多くの苦しみや憎しみがあるのか。」「神は存在するのだろうか。」「神はわたしのことをどう思っておられるのか。」やがて、すべての疑問に対する答えを知ることはできず、自分たちよりもはっきりと答えの分かる人がだれかいるはずだという結論に至ります。そのだれかとはイエス・キリストであることに気づくならば、さらに謙遜けんそんになり、教えを受ける備えができ、そしてアブラハムのように「義に従うさらに大い

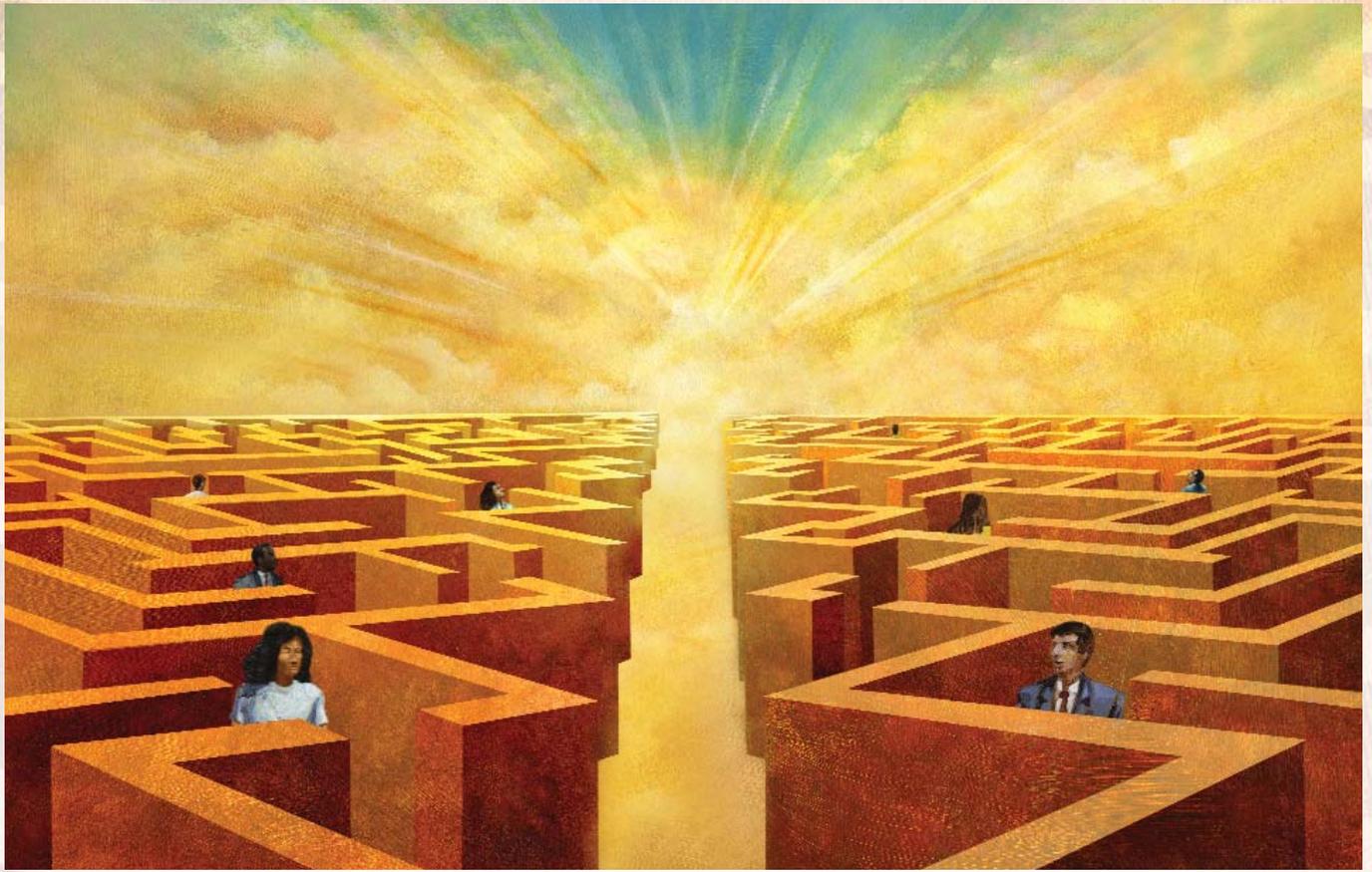
なる者となる」ことを願うようになるでしょう(アブラハム1:2)。

心静かに内省するとき、キリストに至る道とは何かを自分自身に問いかけることができます。ジェームズ・E・ファウスト副管長はこう言いました。「心を静め、聖霊のささやきに耳を傾けてください。……皆さんの心の奥深く神によって植え付けられた気高く直感的な感情に従ってください。」² 聖なる御霊みたまは啓示者として、わたしたちをキリストのもとに導く責任を持っておられます(モロナイ10:5-7;教義と聖約11:12-14参照)。そしてわたしたちは、「聖なる御霊の勧めに」従い始めるときに(モーサヤ3:19)、自分の過ちを認め、真の悔い改めをするようになります。

聖霊の助けを受けて初めて、へりくだって従順と犠牲の律法に従い、襲い来る悪魔に耐えることができます。その後、個人的なふさわしさと、柔和で主の御心みこころを聞き分けることのでき

この世は
わたしたちに、
天に通じる道は
たくさんあるのだと
信じさせようとします。
しかし、キリストは
御自身こそが
唯一の道であると
宣言されました。





ま っすぐな道は、
生まれながらの
人から
キリストの弟子に
変わるための
最短距離なのです。

る心をはぐくみ始めます。不平を避けることができれば、「悔い改めに導く行い」をするようになり(アルマ9:30)、主から求められている、打ち砕かれた心と悔いる霊を持てるようになります。こうして、キリストのもとに来る中で、わたしたちの道が主の道となるのです。

この狭くてまっすぐな道に入った後で(2ニーファイ9:41参照)、時に「なぜこんなにまっすぐなのだろう」と疑問に思うこともあるかもしれませんが。それでもわたしたちは、ほかのすべての道が、万人に共通に与えられた賜物である時間を無駄にする道であることを、^{たまもの} どういうわけか知っているのです。結局のところ、まっすぐな道は、生まれながらの人からキリストの弟子になるための最短距離なのです。

自分が正しい道にいることはどうしたら分かるか

自分が正しい道にいるかどうかは、生活の中で受ける祝福や聖霊からの示しによって分かります。主は、わたしたちが御父のもとに帰れるように、惜しみなく知識や教えを与え、過ちを正してくださいませ。神権を尊び、神聖な儀式を受けるなら、わたしたち個人の生活の中で「神性の力

が現れる」のを目にするでしょう(教義と聖約84:20参照)。「キリストの言葉は〔わたしたちが〕なすべきことをすべて告げ」(2ニーファイ32:3)、心から悔いた謙遜な人だけが得られる喜びに導いてくれます(アルマ27:18参照)。

聖文を調べるときに、わたしたちは救い主の声を聞くことができます(教義と聖約18:34-36参照)。試練に遭うときに、主の味わわれた痛みや苦しみを感じ、自分の身に置き換えて考えることができます。また悔い改めるときに、主の^{あがな} 贖いによってさらに主に近づくことができます。

主の道に従って歩むとは、主の影響を受けることであり、また主が人に影響を及ぼされるように仲立ちとなることです。自分たちでできる以上に主はわたしたちを変えてくださり、想像以上に奉仕する能力を与えてくださるのです。

キリストのもとに来ることを選ぶなら、真に祝福されます。主の贖いの愛を味わうことは、計り知れない喜びです。主の弟子となり、主の道に従うことは、わたしたちにできる最善の選びです。主は実にキリストであられるのです。■

注

1. Conference Report, 1951年4月, 93
2. 「天使に近い者となるために」『聖徒の道』1998年7月号, 106

奉仕を通して 主の愛を感じる

以下のメッセージから訪問先の姉妹たちの必要に合った聖句や教えを祈りの気持ちで選び、読んでください。自分の経験や証^{あかし}を伝え、あなたが教える人々も同様に分かち合うよう勧めてください。

奉仕を通して救い主とその愛をより身近に感じるのなぜでしょうか。

教義と聖約76：5-6—「主なるわたしは、……最後まで義をもって真理にかなってわたしに仕える者に誉れを与えるのを喜びとする。彼らの受ける報いは大きく、彼らの栄光は永遠である。」

第一副管長 トーマス・S・モンソン—「神を愛し、隣人を愛するとき、天の御父の愛を頂くことができます。わたしがこれまでの人生の中で受けてきた祝福の中で最も素晴らしい祝福は、ほかの人の祈りを主がわたしを通してかなえてくださったということを知ったときの喜びです。主を愛し、隣人を愛するときに、主はほかの人々の祈りを、わたしたちの奉仕を通してかなえられられるということを発見するのです。」（『どのようにして愛を示すべきか』『聖徒の道』1998年2月号、7）

心と思いを尽くして奉仕するとはどういう意味でしょうか。

十二使徒定員会 ダリン・H・オックス—「奉仕について考えるとき、実際に手を動かして行う働きを考えるのが普通です。……神に仕えるに

は、勢力と力を尽くすだけでは十分では〔ありません〕。わたしたちの心の中を読み、思いを御存じの神は、それ以上のことを期待しておられるのです。終わりの日に神の前に罪のない状態で立つためには、心と思いを尽くして奉仕しなければならないのです。心と思いを尽くして奉仕することは、だれにとっても大変なチャレンジです。そのような奉仕は、利己的な野心と無縁のものでなければなりません。そのような奉仕の真の動機となり得るのは、キリストの純粋な愛以外にありません。」（『何のために奉仕するのか』『聖徒の道』1985年1月号、12-15参照）

中央扶助協会第一副会長 キャスリーン・H・ヒューズ—「〔天の御父〕は、途方もなく大きな愛を持っておられる神です。わたしたちの支えとなるのが、御父の変わることはない願いなのです。……わたしたちは互いに重荷を負い合うというチャレンジを受け入れました。『互いに重荷を負い合う』と聞くと、つらい務めのように思うかもしれませんが、しかし、実際に務めを果たすとき、その重荷は瞬く間に驚くほど軽くなります。なぜそのようなことが起こるのでしょう。互いに重荷を負い合うとき、わたしたちはキリストの代理人として行動します。そして、キリストのもとに近づくのです。……わたしたちは何と祝福されているこ



とでしょう。どれほど感謝したらよいのでしょうか。天の御父はわたしたちの必要を御存じであり、その必要を満たす手段として扶助協会を与えてくださっているのです。扶助協会のおかげで、愛ある者たちの心と手により、様々な人の必要が満たされています。」（“Serving and Supporting One Another,” *The Rock of Our Redeemer: Talks from the 2002 BYU Women’s Conference* [2003年], 53-54）

十二使徒定員会 ヘンリー・B・アイリング—「奉仕の召しは本来、心にかかわるもので〔す〕。……あなたは救い主を代表するよう召されています。あなたの証は主の声となり、あなたがだれかを支える手は主の御手となります。……御父とその愛^{あいし}子が、あなたを導くために聖霊を伴^{はんりよ}侶として送ってくださるのです。あなたの仕える人々の人生の中で、あなたの働きは大いなるものとなるのです。やがてこの時期を振り返るとき、困難な日々としか思えなかった奉仕と犠牲が、祝福に変わっています。そして、あなたが神のために仕えた人々を、さらにあなた自身を、神がその腕で抱き上げてくださったのだと悟るのです。」（『神からの召し』『リアホナ』2002年11月号、75-78参照）■

力強い手と 優しい心



家庭訪問は、福音に従って生きる姉妹たちに、互いに愛の手を差し伸べ、思いやりを示す機会を提供してくれます。

「30年以上前に初めて訪問教師に召されたときのことを覚えています。長い間教会に来ていない若い姉妹を訪問するよう割り当てられました。」そう回想するのはカリフォルニア州ランチョー・クカモンガステーク、ヒルサイドワードのキャサリン・カー・ハンフリーです。「その姉妹は1970年当時のヒッピーのような格好をしていました。わたしは毎月忠実に彼女の家を訪ね、戸をたたきました。彼女はいつも内側の扉だけ開き、網戸を閉めたままにしていたので、その姿をはっきりと見ることはできませんでした。そして決して口を開こうとせず、ただ玄関にじっと立っていました。わたしはできるだけ快活にこう言うのでした。『こんにちは。訪問教師のキャシーよ。』そして何の反応も得られないまま続けます。『今日のレッスンを伝えるわね。』親しみを込めて手短かに霊的な言葉を伝えると、彼女は



短く礼を言いドアを閉めるのでした。

訪問は気が進みませんでした。どのように接すればよいのか分からなかったのです。けれども従順でいたかったので毎月訪問していました。このような訪問が7, 8か月続いた後、監督から電話がありました。

『キャシー、君が訪問しているあの若い姉妹が出産したんだが、赤ちゃんが数日で死んでしまったんだ。ご主人と二人で略式の葬儀をするので、君に参列してもらえないか聞いてほしいと彼女に頼まれたんだよ。君は彼女のたった一人の友人だそうだね。』

わたしは葬儀に参列しました。墓地にいたのは、彼女と夫、監督とわたし、それだけでした。彼女に会うのは毎月1度、それもほんの数分間にすぎませんでした。網戸越しだったので、妊娠していることにすら気づき



ませんでした。けれども、十分とは言えないものの望みを持ち続けた訪問は、彼女にもわたしにも祝福となったのです。」

このような奉仕の場面は、教会全体を通していろいろな形で何度も繰り返されています。中央扶助協会会長のボニー・D・パーキンが最近こう言いました。「主の用向きを受けて歩みを進める信仰篤い姉妹が世界中に大勢います。

単純でありながら重要な奉仕の業を行っているのです。なぜ家庭訪問を行うのでしょうか。それは聖約を交わしているからです。モーサヤは聖約についてこう語りました。『互いに重荷を負い合〔い〕……悲しむ者とともに悲しみ、慰めの要る者を慰める』(モーサヤ18:8-9)。

ある朝、大学時代の友人からその朝に彼女の夫のレイが亡くなったとの電子メールが届きました。それにはこうありました。『訪問教師に助けられているわ。家庭訪問はほんとうにすばらしいプログラムよ。』それはわたしたちが家庭訪問と呼ぶプログラムが、単にメッセージを伝えたり、訪問したりすることをはるかに超えた価値あるものだという、愛する友人の証^{あかし}でした。家庭訪問はわたしたちが互いにきずなを保つ方法なのです。……

ともに悲しみ、慰め、証人として立つ。これらの約束はすべて成就しました。……〔主は〕御自身と聖約を交わした二人の姉妹を彼女に送られました。……二人は福音に従って生き、自らにゆだねられた役割を心から果たす必要があることを理解していました。……これこそが家庭訪問の真髄です。』

パーキン姉妹は続けます。「家庭訪問は扶助協会の中心を成す、非常に重要なものです。』¹

預言者ジョセフ・スミスの母親であるルーシー・マック・スミスは、扶助協会の第2回集会で次のように言いました。「わたしたちは互いを大切にし、見守り合い、慰め合い、教えを受けなければなりません。そうすれば天国で皆ともに座に着くことができるでしょう。』²

次の言葉を心にとどめましょう。「家庭訪問の目的は姉妹たちが互いにいたわり合う関係を築き、援助や慰め、友情を与え合うことである。家庭訪問では、行う側^{がわ}も受ける側も、お互いへのいたわりにあふれた配慮によって、教会活動を通じ、祝福を受け、強められる。』³

互いに教え合う

新しく扶助協会の会員となった若い姉妹に、家庭訪問が扶助協会の中心を成す、非常に重要なものであると教えること

写真：ジョン・ルーク、特記されたものを除く。左奥—写真：ウェルマン・C・アンダーセン、写真はイメージです

は実に大切です。新しい姉妹には、模範的な訪問教師を割り当てることで訓練と指導を提供できます。母親を同僚に持つことがよい訓練となる姉妹もいます。

現在ブリガム・ヤング大学第2ステークBYU第176ワードに所属するカーラ・S・ロングモアが訪問教師に召されたとき、同僚は母親でした。母親は大喜びでしたが、カーラは扶助協会に参加するにはまだ若すぎると感じていました。カーラは当時のことをこう語ります。「母とわたしは二人のすばらしい姉妹の訪問教師として召されました。振り返ってみると、わたしの人生での困難な時期にこの二人の姉妹がどれほど大きな影響を及ぼしてくれたかがはっきりと分かります。二人はわたしの模範でした。年上の指導者だっただけでなく、ほんとうの意味での友人だったので。彼女たちを訪問すると、平安で穏やかな気持ちになりました。そしてほんとうに愛されていると感じたのです。

母と一緒に過ごせたあの時間に感謝しています。わたしは今大学に通っていますが、母と一緒に訪問教師として働いた経験が、二人の関係にとってどれほど価値あるものだったかを実感しています。また、訪問教師としての母を見、その力強い証を聞き、『シオンの娘』〔『賛美歌』195番参照〕たちに対する母の愛についてさらに知る機会があったことに感謝しています。同僚として働いたおかげでより対等な関係を築くことができ、わたしたちが『シオンの娘』であると実感しました。』

見守り、手を差し伸べる

訪問教師は毎月1度連絡を取るよう求められています。状況によってはより頻繁に行く必要があります。スペンサー・W・キンボール大管長(1895-1985年)は言いました。「訪問教師の義務は、多くの点でホームティーチャーのそれと同じでなければなりません。簡潔に言えば、『常に教員を見守る』ことです。それは月にたった20分間の奉仕ではありません。常に『彼らとともにいて彼らを強める』ことであり、単に訪問するだけに終わらず、ともにいて、鼓舞し、強め、力を与え、励ますことです。』⁴ このような家庭訪問を通して、わたしたちは「見守り、手を差し伸べ」ます。

病院で夜働いていたある姉妹は、訪問教師から「見守り、手を差し伸べ」られる経験をしました。毎月、昼休みに訪問教師が病院を訪ねて来るようになったのです。夜勤で働く彼女の昼休みは、早朝に割り当てられていましたが、犠牲をいとわず朝早く病院にやって来る訪問教師に驚くと同時に、その訪問に深く感謝しました。



アルバータ州カルガリーステーク、ヘリテージワードのシンシア・E・ラーセンは、やりがいのある家庭訪問を行ううちに、「見守り、手を差し伸べる」ことに喜びを見いだしました。ラーセン姉妹は言います。「初めてディーナを訪問したとき、不安でいっぱいだったことを覚えています。自分とはまったく対照的な姉妹だと思ったのです。石油会社の重役を務める独身のディーナは最近改宗したばかりでした。けれども訪問を重ねるごとに、たくさんの共通点があることが分かってきました。

ディーナは自分が癌に冒されていることが分かったとき、落ち着いて、包み隠さず勇気をもって質問に答えてくれたので、わたしの不安は和らぎました。その日からわたしはディーナの模範を通して、高潔さと忍耐とは何かを学ぶようになりました。

それから数か月間、ディーナは癌について熱心に学び、人々に知らせました。扶助協会の姉妹たちのために、癌についての情報を提供する夕べを開き、地域の癌患者支援団体に加入しました。

しかし薬物治療と化学療法により、ディーナの体力と気力は次第に衰えていきました。体調の良い日には、散歩に出てほかの癌患者を励ました。そして具合の悪いときはできるだけ楽天的な考え方を保ち、体力を温存し、証を蓄えました。

病状が悪化すると、わたしたちは毎日訪問しました。一緒に笑ったり、泣いたり、時には冗談を言い合い、また真剣に話し合いました。ディーナは死について考えるのを最初はためらっていましたが、次第に勇気をもって受け入れるようになりました。そして毎日が最善の日となるよう努力を続けました。

愛する友人であり、福音に従って生きるディーナが亡くなるまでの数か月間、機会を見つけては奉仕する彼女の姿を見ました。わたしは訪問教師でしたが、福音に従って生活するときにもたらされる祝福について教えてくれたのはディーナの方だったのです。』

ゴードン・B・ヒンクレ大管長はこう説明します。「苦しみや悩み、孤独、恐れのために助けを求めている人が教会の中にいます。そのような人々に援助の手を差し伸べて引き上げる、飢えている者を食べさせ、真理と正義を切望している人の霊をはぐくむことは、わたしたちに与えられている偉大で重要な責任です。』⁵





柔軟な対応

「見守り、手を差し伸べる」ことは確かに家庭訪問の目標です。それは独創性や柔軟な対応が求められる状況にあっても実行することができます。例えば、アラスカ州アンカレジ・ブッシュ地方部では、ほとんどの場合スノーモービルが家庭訪問の唯一の交通手段です。川が十分に凍っていれば車での訪問も可能ですが、毎月が望ましいと言われている訪問は明らかにできません。この地方部の姉妹たちは、電話や電子メールによって心と霊のきずなを保ちます。パーキン姉妹はこう勧告しました。「毎月の訪問ができない場合にも、何らかの手段を講じてください。独創性を駆使して、姉妹たちと連絡を取る方法を探してください。」⁶「どうか、皆さんの最善を尽くしてください」というヒンクレイ大管長の励ましを思い起こしましょう。⁷

ナイジェリアのフローレンス・チャクウラーがある姉妹を訪問するよう召されたとき、心に浮かんだのはヒンクレイ大管長のその言葉でした。その姉妹は夫婦関係と家庭に問題を抱え、自宅で訪問を受けることができなかつたため、市場で家庭訪問を行わなければなりません。姉妹が直面する試練について話を聞き、状況を把握したチャクウラー姉妹は、苦境に立

つこの姉妹を助ける方法を知るために夫に神権の祝福を求めました。祝福の後、チャクウラー姉妹は什分の一の重要性について話し合うよう促しを受けました。「彼女は、十分な収入がないため什分の一を納めていないことを涙ながらに教えてくれました。」チャクウラー姉妹はそう回想します。「わたしの家で一緒にマラキ書3章10節を読んで話し合うことを提案しました。そうすれば、リラックスしてだれにもじゃまされずに話ができるからです。彼女は同意しました。話し合いの後、信仰を働かせてとにかく6か月間だけでも什分の一を納めるよう勧め、御霊の導くまま証を述べました。」

数か月後に、この姉妹の環境に劇的な変化が訪れたとチャクウラー姉妹は証します。娘は奨学金を受け、高校を卒業することができました。夫は監督の助けで教会に活発に集うようになり、教会の責任を引き受けました。そして夫婦で協力して家計と夫婦関係を改善し、やがて周りの人々を霊的に鼓舞するまでに至りました。

友人となる

ある若い姉妹は、訪問教師がどのように愛と思いやりと友情を示してくれたかを思い出します。法学部の最終学年の終わりに、彼女は新

家庭訪問の目的の一つは、援助や慰め、友情を通して、姉妹たちが互いにいたわり合う関係を築くことです。月に1度以上連絡を取らなければならない状況もあります。より多くを与えることは、訪問教師の義務であり特権です。





心と霊を ささげて 家庭訪問を

行うためには、
訪問先の姉妹について
よく祈る必要が
あります。
主の言葉に耳を傾け、
それに従うなら、
業を行うに当たって
主が導いて
くださいます。

しいワードに転入しました。そこで分かったことは、自分がワードでいちばん年齢が若いということでした。ほかの姉妹とは30歳近く離れていました。「居心地が悪いうえ、周りは知らない人ばかりでした。」彼女は回想します。「だんだん教会から足が遠のきました。ワードのだけれども言葉を交わすことなく、まるで影のように教会に顔を出したり出さなかったりという状態が続きました。

数週間後、快活でユーモアあふれる白髪の女性が訪れ、訪問教師だと名乗りました。彼女はワードのいろいろな姉妹を同僚に、ほぼ毎週訪問してくれました。たくさんの姉妹と親しくなれるようにするためです。〔訪問教師が〕大勢の友人に紹介してくれたおかげで、〔やがて〕わたしは影のような存在ではなくなりました。〔このワードを〕去って数年たちますが、その会員たちは今でも最も大切な友人です。』

靈感に従う

心と霊をささげて家庭訪問を行うためには、訪問先の姉妹についてよく祈る必要があります。主の言葉に耳を傾け、それに従うなら、業を行うに当たって主が導いてくださいます。

ブラジル・サンパウロの扶助協会会長であるエリザベス・コンティエリ・ケメニーは、ある姉妹の訪問教師として働くべきであるとの靈感を受けました。内気なその姉妹は妊娠中で、夫が仕事で留守がちなため、一人で教会に集っていました。ワード扶助協会では、毛布や衣類などの乳児用品セットを作るステーキのプロジェクトに参加したばかりでした。乳児用品セットをステーキに届けることになっていた日曜日、ケメニー姉妹は朝6時に目覚めると、ステーキではなくその姉妹に乳児用品セットを届けるべきであるとの強い靈感を受けました。

ケメニー姉妹は副会長と監督と一緒にその姉妹のアパートを訪問しました。すると、すでに陣痛が起こって病院に行っていることが分かったのです。3人はそのまま病院へ直行し、姉妹が無事赤ちゃんを胸に抱いている姿を見ることができました。訪問を受けた姉妹の頬を

涙が伝いました。彼女はだれかが助けに来てくれるようにと、天の御父に祈り続けていたのです。夫は出張中でした。おまけに赤ん坊をくるむ毛布はおろか、家に帰るためのバス代も持っていなかったのです。

その日の午後のステーキの集会上、ケメニー姉妹のワードは乳児用品セットを寄付できませんでした。それらの品は、物質的および霊的な祝福としてあの姉妹に渡ったのです。すべては訪問教師が祈り、聖霊の促しに耳を傾けた結果でした。

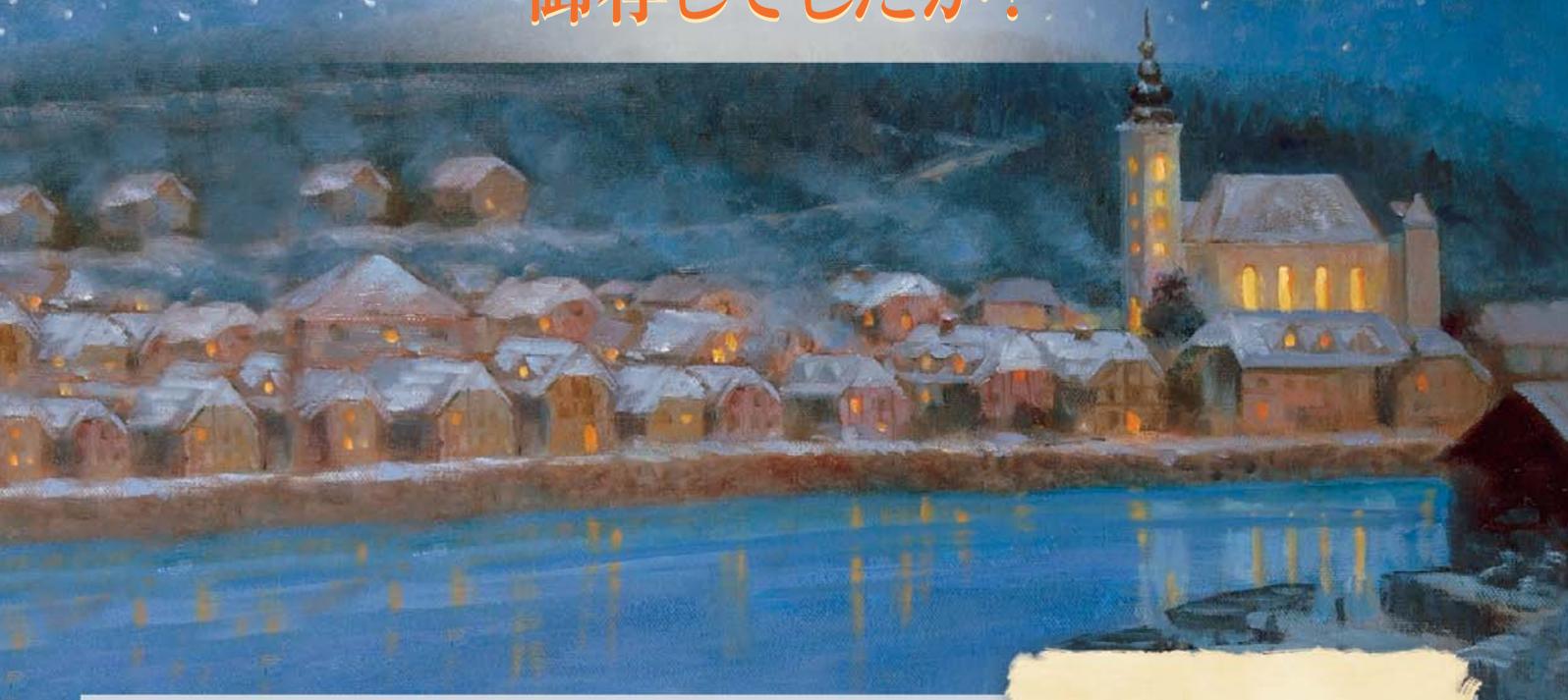
ヒンクレイ大管長はこう教えます。「助けが必要な人、絶望に打ちひしがれ、困難な境遇にある人を見つけ、愛の心をもって教会の囲いに導いてください。そしてその人たちが教会員の力強い手と優しい心によって温かく迎えられ、慰められ、支えられるようにしてください。』⁹ わたしたちは訪問教師として、このような責任と特権を与えられているのです。■

注

1. *Visiting Teaching: The Heart and Soul of Relief Society* (扶助協会オープンハウスでの説教, 2003年秋), 3-4, 15-16
2. *History of Relief Society, 1842-1966* (1967年), 20で引用
3. 『教会指導手引き 第2部 神権指導者・補助組織指導者』206
4. “A Vision of Visiting Teaching,” *Tambuli*, 1978年12月号, 2, *Ensign*, 1978年6月号, 24参照
5. 「援助の手を差し伸べる」『聖徒の道』1997年1月号, 99参照
6. *Visiting Teaching: The Heart and Soul of Relief Society*, 12
7. 「教会の女性」『聖徒の道』1997年1月号, 788
8. バーバラ・B・スミス, “A Story of New Beginnings,” *A Woman’s Choices: The Relief Society Legacy Lectures* (1984年), 8で引用
9. 『聖徒の道』1997年1月号, 99参照



御存じでしたか？



クリスマスの真の精神

「得ることではなく、与えることによって、クリスマスの精神は生かされます。人々は敵を赦し、友を思い起こし、神に従います。クリスマスの精神は、心の窓から見える景色を照らし出します。わたしたちはこの世の忙しい生活に目をやって、物ではなく、人にもっと関心を寄せるようになります。」

第一副管長 トーマス・S・モンソン 「クリスマスの贈り物、クリスマスの祝福」『聖徒の道』1995年12月号、3

指導者へのヒント—— 真のクリスマスの物語

完全な指導者であるイエス・キリストは、わたしたちが神の最も大いなる賜物たまもの、すなわち永遠の命を受けられるようにしてくださいました（教義と聖約14：7参照）。救い主の降誕の話を読むとき、主の地上にお



ける教導の業についても読みましょう。無私的心で与え続けられた主の模範は、皆さんが今年のクリスマスにどのような奉仕をするか考えるうえで指針となるでしょう。

絵／グレン・S・ホブキンソン。「使徒の足をお洗いになるイエス」デル・パーソン画

“Stille Nacht”

一日のうちに作詞、作曲、そして初演されたクリスマス・キャロルがあります。1818年のクリスマスイブ、オーストリアにある小さな教会のオルガンの音が出なくなっていました。その夜の礼拝行事に音楽が必要だと分かっていたオーストリア・オベルンドルフの教区の司祭補佐、ジョセフ・モアは、靈感を受けて新しい賛美歌の歌詞を書き上げました。その歌詞を教会のオルガニストであるフランツ・グルーバーのもとへ持って行ったところ、彼はギターで演奏するための曲を作ってくれました。その晩、フランツとジョセフは新曲の美しい賛美歌“Stille Nacht”，すなわち「聖し、この夜」を演奏しました。この賛美歌は、あっという間に世界中で人気を博すようになりました（『賛美歌』118番参照）。

預言者 生誕の地



ジャネット・トーマス

教会機関誌

今から200年ほど前の
1805年12月23日、
バーモント州
シャロンで生まれた
ジョセフ・スミスは、
末日に
福音を回復するという
偉大な業の
指導者となった。
ジョセフが
誕生したのは
平和な町であった。

アメリカ北東部、ニューイングランド地方の小さな州バーモント。そのちょうど中央部辺りに、これもまた小さな町シャロンとサウスロイヤルトンがあります。高速道路を走る車やトラックのほとんどが、この小さな二つの町を、まるで地図にない町でもあるかのように、猛烈なスピードで通り過ぎて行きます。しかし、教会の歴史的な出来事について知識を深めようと、毎年団体でやって来る多くの旅行者は違います。旅行者はハイウェイ89を2番出口から出て、ゆっくりとシャロンの町を通り抜けます。本場のメープルシロップを売る日用雑貨店の前を通り過ぎ、川に沿って車を走らせ、真鍮製の看板の立つ交差点にたどり着きます。そしてその看板に指示されたとおりに角を曲がり、デアリーヒルという坂道を上り、うっそうと樹木の生い茂る丘の上の小さな農場の前を通り過ぎ、カエデの木が両側に立ち並ぶ細い道に出ます。次に目に入る看板にはこう記されています。「預言者ジョセフ・スミス生誕の地」。この看板こそあの偉大な出来事、あの偉大な人物を記念して100年ほど前に建てられた記念館への入り口なのです。

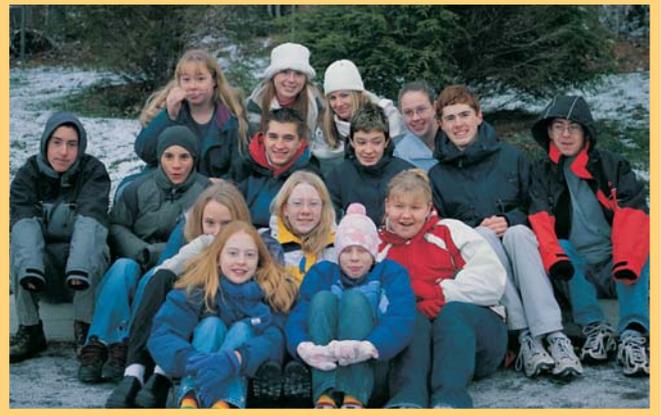
この細い道に入った訪問者が最初に目にするもの、それはなだらかな芝生が前方に広がる末日聖徒の白く美しい教会堂です。しかし、カエデの木の間に縫って同じ細い道をさらに進んでい

くと、ある変化に気づきます。ほんとうに静かで落ち着いた雰囲気が漂い始めるのです。

ここを訪れるだれもが、このような雰囲気の変化を感じることでしょう。ミドルベリー支部のケビン・バックホルダーはおばを連れて家族で預言者生誕の地を訪れたときのことを覚えています。車が敷地内に乗り入れると同時に、おばが次のように尋ねたこともケビンは記憶しています。「ここはどうなっているの？ どうしてこんな気持ちを感じるの？」ケビンによれば、家族は次のような言葉で説明しようとしたそうです。「ほかのどこと比べても、見かけ上は何の違いもないけど、ここにはほんとうに特別な御霊があるからさ。教会について何か疑問があったとしても、そんなの吹き飛んじゃうよ。ここにいると頭の中がとてもすっきりしてくるように感じるもの。」

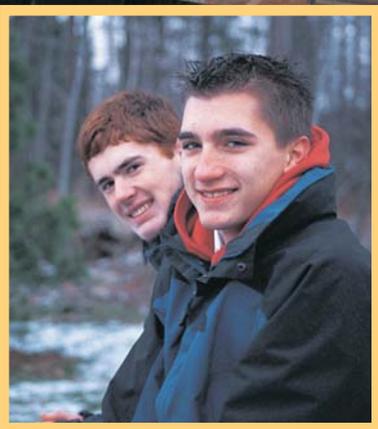
バーモント州モントペリアーステーク、エセックソードのケイトリン・シャンプのような10代の若人も、地の利で、ジョセフ・スミス生誕記念館によく足を運びます。彼女もこの場所の雰囲気について次のような感想を述べています。「ここは神聖な所だと感じます。ほんとうに静かで落ち着いた雰囲気です。」

訪問者が教会堂を通り過ぎ、ゆるやかな勾配の細い道を進んで行くと、二つの低いれんが造りの建物が見えてきます。正面から見ると鏡で映し



左——雪など物ともせずに
預言者ジョセフ
生誕の地で
記念碑の前に立つ
リサ、キム、ミッシェル・
フランシス。
上——預言者
生誕の地を何度も
喜んで訪問する
隣町バーリントン、
エセックスワードの
青少年。
下——ジョセフが
誕生したところに
丸太小屋が建っていた
位置に設けられた
プレートを読む
ミーガン・トレーシー





たように左右対称に見えます。一つは訪問者センター、もう一つは、生誕記念館で働く宣教師のオフィスになっています。二つの建物の間を通る階段を上るとそこには記念碑があります。

者であったかを示すものです。」サウスロイヤルトンワードのアリシャ・アダムズも短い言葉でこう語っています。「この記念碑は教会が堅固な土台の上に築かれていることを象徴するものだと思います。」

午後には石柱の正面が太陽の光に照らされて明るく輝きます。まるで突然スポットライトが当たったかのような印象を受けます。夏になると記念碑は辺り一面の花や花壇に囲まれます。預言者ジョセフ・スミスは12月23日に生まれましたが、冬になると、その時期に似つかわしく、真っ白な雪が丘を覆います。毎年12月には、バーモント州モントペリアーステークが、この預言者生誕の

上右——当時の丸太小屋の中から出てきた、暖炉の石とそのそばに立つケイトリン・ベック。
上——上から順に、サウスロイヤルトンワードの建物。預言者生誕の地にある訪問者センター。エセックスワードのスティーブン・ブラウンとアンドリュー・ローズ。

滑らかに磨かれた花崗岩

記念碑は小さな丘の上に建っています。表面がよく磨かれた花崗岩の石柱で、高さ38.5フィート(約11.7メートル)あり、ジョセフ・スミスの一生、つまり38年6か月を象徴しています。石柱は大きな四角い石材の上に据えられています。記念碑の石が切り出された1905年当時、それは、たった一つの岩盤から切り出された石でできた尖塔としてはアメリカ最大のものでした。傷一つないその石は、記念碑でたたえられている人物がいかに傑出した人生を送ったかを物語っています。バーリントンワードのクリスティン・シモンズはこう語っています。「この記念碑は、ジョセフ・スミスが一体どのような人物であったかを実によく象徴していると思いました。記念碑は不純物のない石を使って、しっかりとした土台の上に建てられています。それはまさに、ジョセフ・スミスが何

さらに詳しく知りたい人のために

預言者生誕の地への地図やその他の情報(英文)に関しては、www.lds.org にアクセスしてみてください。「Church History」(教会歴史)をクリックし、次に「Historic Sites」(史跡)を選びます。そして「Places to Visit」(観光地)から「Northeastern USA」(アメリカ北東部)を選択します。最後に「Joseph Smith Memorial Birthplace」(ジョセフ・スミス生誕記念館)をクリックしてください。

地で、地域の人々とともに救い主の降誕を祝う降誕劇を行います。そのときには敷地全体がたくさんライトで飾られます。

ジョセフ・スミス・シニアとルーシー・マック・スミスは、ルーシーの父ソロモン・マックの所有するこの農場で2、3年だけ生活していました。彼らの子供9人のうち、ここで生まれたのは息子のジョセフ・スミス・ジュニアだけでした。農地は以前のままの状態維持されており、面積は300エーカー(約120ヘクタール)あり、美しい樹木が記念館の周囲を取り巻いています。

ジョセフ・スミスが生まれた凍えるような12月がどのようなものだったか想像に難くありません。建てられた当時の丸太小屋はかなり昔に倒壊し、現在は瓦礫と化していますが、玄関の階段と、暖炉の底に敷いていた石は保存されています。

丸太小屋の玄関の階段に用いた石は、丸太小屋が昔あった辺り、記念館の横にある外のベンチのそばに置かれています。暖炉の底に敷いていた石は訪問者センター内部にある暖炉の前に置かれています。その上に座っていると、暖かい暖炉の火の近くで、生まれたばかりの赤ちゃんを抱く母親の姿が想像できます。クリスタル・コレットとステファニー・ライトは二人ともエセックスワードの会員ですが、同じようなことを考えました。ステファニーはこう語っています。「この石のそばに座って、思いをはせるのが好きです。」クリスタルはこう語っています。「預言者が生まれたのはまさしくこの場所、母親が服を着せたり、着替えさせたりしたのもきっとこの場所なんですね。」

答えを見いだす

記念碑の下の方には14歳のときの預言者ジョセフにとって重要な意味を持った聖文が刻まれています。そこにはこう記されています。「あなたがたのうち、知恵に不足している者があれば、その人は、とがめもせず、惜しみなくすべての人に与える神に、願い求めるがよい。そうすれば、与えられるであろう。」(ヤコブの手紙1:5) 預言者はこう語っています。「この聖句が、……かつて人の心に力を与えたいかなる聖句にも勝って、わたしの心に力強く迫って来たのであった。」(ジョセフ・スミス-歴史1:12) バーモント州に住み、預言者生誕の地を何度も訪れる機会のある10代の若人たちは、ジョセフの模範から学んだ教訓を大切にしています。知恵に不足しているときには、助けを求めることができるということを理解できるようになったのです。

エセックスワードのステイブン・ブラウンは次のように語っています。「この教会が真実かどうかを自分自身で知る唯一の方法は、尋ね求めることです。答えは啓示によってのみもたらされます。答えを見いだす方法は、祈り、耳を傾けることです。」

同じエセックスワードのアンドリュー・ローズは、真理を知ろうと尋ね求めたときのことについてこう語っています。「わたしはモルモン書を毎日続けて読んだという経験が一度もありませんでした。しかし、そのとき、モルモン書を手に取って、こう祈りました。『どうぞこの書物が真実かどうかを教えてください。』それから序文を読み始めました。わたしは御霊に圧倒されました。こう思いました。『すごい! まだ序文しか読んでいないのに。』



絵 / フランシス・コール

ジョセフの両親について

預言者の母親、ルーシー・マック・スミスはニューハンプシャーで生まれました。まだ10代のころに、妹のラビナが亡くなりました。その死はルーシーに深い悲しみをもたらしました。兄のステイブンが訪ねて来て、ルーシーをバーモント州タンブリッジの町に来させて、自分の家族としばらく一緒に生活させてはどうかと父親に勧めました。そうすることでルーシーが愛する妹を亡くした悲しみから立ち直れるのではないかと、という兄夫婦の計らいでした。

タンブリッジを訪れている間に、ルーシーはジョセフ・スミスという一人の若者と出会い、結婚しました。結婚式は1796年1月24日に挙げました。当時ルーシーは20歳、ジョセフは24歳でした。後にこの二人はジョセフ・スミス・ジュニアの両親となります。この子供こそ、ルーシーが生涯のほとんどをかけて探し求めた絶対的な真理、イエス・キリストの福音を回復する人物となるように定められた子供でした。

若い夫婦、ルーシーとジョセフ・シニアは、タンブリッジに小さな農場を所有し、そこで日用雑貨店(上図)を経営していました。この店は修復され増築されましたが、今日でも同じ場所に残っています。タンブリッジに住んでいる間に、スミス家には長男のアルビンと次男のハイラムが生まれます。やがて若い家族は、バーモント州シャロンの郊外にあるルーシーの父の所有する農場に移り住みました。その農場の敷地内に建てた小さな丸太小屋は、シャロンとサウスロイヤルトンの町境にありました。息子のジョセフは1805年12月23日に生まれ、その翌日、父ジョセフが徒歩でシャロンの町まで行き、そこで息子の出生届を出しています。(ルーシー・マック・スミス、*History of Joseph Smith*, プレストン・ニブレー編(1958年)参照)



上——クリステン・ブラウンとケイトリン・シャンプは、1年のどの時期でも、預言者生誕の地を訪れるのを楽しみにしている。毎年夏になると、敷地の一区画にあるキャンプ・ジョセフを利用して、ステーク若い女性キャンプが開催される。二人はこのキャンプに参加することを特に楽しみにしている。敷地内には、訪問者が利用できるピクニック場も設けられている。

それはまさしく祈りに対する答えでした。」

真理を探し求めて

ジョセフが真理を探求してすばらしい答えに導かれたように、バーモント州エセックスワッドに集う10代の若人も、ジョセフと同様の方法で真理を探求することによって祈りの答えを理解するようになりました。ドーン・ドニーはこう語っています。「ジョセフは両親の支えを受けながら、真の教会を探し求めました。わたしも疑問や心に引っかかることがあると、両親と相談することにしています。」ドーンはジョセフと同様、聖文にも助けを求めようとしています。

「ある考えが突然心に浮かぶことがあります。」クリステン・ブラウンはこう言います。「そうすると、心が燃えるような気持ちになります。問題という錠に、解決の鍵^{かぎ}がぴったりと合ったような感じです。その気持ちを通して、自分の祈りが答えられたことを知るのです。」

ケイトリン・シャンプはこう語っています。「周囲にだれもないとき、ほかに何もすることがないときには、時間を取って、じっくりと考え、心から祈るべきです。」

オータム・ドニーはこう付け加えています。「14歳といたら、男の子に気に入られるだろうとか、みんなからよく思われているだろうかといったことについて心配をする年頃です。でも、ジョセフ・スミスは、真理と真実の福音を見いだすことに関心を向けていました。そんなに深い信仰が自分にもあればと思います。わたしたちは毎朝、毎晩、ひざまずいて祈る必要があります。」

あなたがそこで見いだすもの

10代の若人の中には、サウスロイヤルトンワッドのように、毎週日曜日は礼拝行事に、毎週水曜日はミューチャルに出席するために、預言者生誕の地を訪れる人たちもいます。ミーガン・トレーシーはこう語っています。「わたしは全生涯をここで暮らすのが当然と考えてきました。ここがどれほど神聖な所かよく理解している今は、主の御霊がこの地に注がれているのを感じます。預言者生誕の地が自分の住んでいる所からこれほど近くにあるということは心の支えとなっています。」

ケビン・パークホルダーはジョセフ・スミス生誕記念館を訪れる人々にこう提案しています。「森の中を散策してください。わたしたちが『ペトリアーク山』（訳注——「族長の山」の意）というニックネームで呼んでいる丘をゆっくりと歩いて登ってください。その丘に立つと、記念碑を見下ろすことができます。そこに何時間も姿勢を正して座り、様々なことについて考えてください。そうすると満面に笑みが浮かぶはずですよ。」■



写真/ウエルテン・C・アンダーセン

預言者自らを語る

「わたしは、高い山から転がり落ちる、ごつごつした大きな石に似ています。わたしが唯一磨かれるときと言えば、それは、何かほかのものと接触することによって角を削り取られるときです。……このようにしてわたしは、全能者の矢筒の中の、滑らかで研ぎ澄まされた矢となるのです。」

預言者ジョセフ・スミス, *History of the Church*, 第5巻, 401

ただの 農場の少年 ではなく

十二使徒定員会

マーク・E・ピーターセン(1900-1984年)

わ たしは……預言者ジョセフ・スミスが神から召されたことを証します。……また、モルモン書が翻訳され、出版されたという奇跡を信じていることを宣言します。

ジョセフ・スミスは、わたしたちの主、救い主、^{あがな}贖い主であるイエス・キリスト、すなわち神の聖なる御子ただ御一人を別にして、この世に生を受けたほかのいかなる人よりも、この世の人々の救いのために多くのことを成し遂げました。

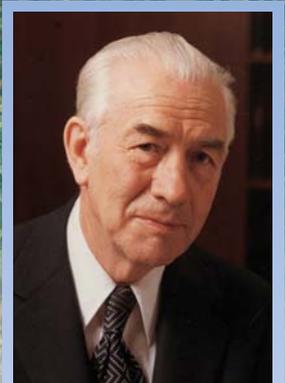
ジョセフが仲立ちとなって、真実の教会、神の王国が再び地上に回復されました。ジョ

セフは神の賜物^{たまもの}と力によってモルモン書を翻訳し、世に出しました。ジョセフが仲立ちとなって、彼の生存中に二つの大陸でモルモン書が出版されました。ジョセフは、今や回復された永遠の福音を、地の四方に送り出しました。

ジョセフは、主から数々の啓示を受けました。それは教義と聖約、高価な真珠、教会歴史として出版されています。……

ジョセフは偉大な者として生き、偉大な者として死にました。キリストの大義のために殉教したのです。そして、いにしへの、主の油注がれた者のほとんどがそうであったように、自らの血をもって自分の使命と証を証明したのです(教義と聖約135:3参照)。

ジョセフは決して朽ちることのない名声を



マーク・E・ピーターセンは1944年に使徒に召され、1984年に他界するまで40年間その召しを果たしました。ピーターセン長老は、少年時代に貧しい境遇にあったジョセフ・スミスが、回復の並外れた預言者になったことについて教えています。

残しました。教会は、すべての国民、部族、国語の民、民族に福音を携えて行きます。時が過ぎると、ジョセフの名はさらに広く知れわたり、ほめたたえられ、祝福されるでしょう。彼の召しの真の偉大さを理解することとなる何百万もの忠実な会員が彼の名を祝福するのです。ジョセフは、末日にこの偉大な業を果たすために天で予任されていました。そしてその召しを、靈感を得ながら立派に果たしました。従う者たちにとって、彼は灯台のような存在でした。ジョセフは自分が献身する御方、すなわち高い所に住んでおられる神に、常に栄光を帰していました。

ジョセフはこのように並外れた偉大な預言者でしたが、幼いころは貧しい境遇にありました。農家の息子として育ったジョセフは、正式な教育をほとんど受けていませんでした。彼の家族は最初ニューヨーク州西部に住んでいました。当時そこは合衆国の中では辺境地でした。

ジョセフの家族は、森の木を切り倒して農地を開きました。家族は皆、謙遜で、貧困や苦難を味わいましたが、勤勉に働き、天の恵みを受けて、幸せな生活を送っていました。

イザヤの預言

ジョセフ・スミスの働きについて、預言者イザヤが預言しています。イザヤは〔ジョセフの〕貧しい生い立ちと、彼が幼年期に教育を受けられないことを暗示しました。……

また、イザヤは第29章の最初の部分で、突如として滅んだ一つの民について述べています。その民はわたしたちの時代に、文字どおりちりの中から、一つの書物を通して語るであろうと預言しているのです。……

イザヤの預言はすでに成就しています。わたしたちは今その書物を手にすることができます。わたしたちはそのことを証します。その書物とはモルモン書です。……

モルモン書

1823年9月22日、ニューヨーク州パルマイラの近くで、神の天使が、ジョセフ・スミスという名の17歳の少年に〔モルモン書の〕隠し場所を教えました。当時ジョセフ・スミスは、農場で働く一介の無学な青年にすぎませんでした。その彼が、この時代における神の預言者として神に召されたのです。

天使が示した書物は金属でできているように見えまし

た。金属板の厚さはブリキと同じくらいで、大きさは縦8インチ〔約20センチ〕、横7インチ〔約18センチ〕くらいでした。めくりやすいように金属製の輪で綴じられていました。厚さは6インチ〔約15センチ〕ほどありました。ページの表と裏には古代の文字がいっぱいに記されていました。小さな文字で、美しく刻まれていました。そして朽ちないように何世紀にもわたって石の箱の中に保管されていました。……

このような石の箱は、特にメキシコや中央アメリカから多く出土しています。例えば、見事な彫刻を施した小さな箱が見つかったとき、中から宝石が出てきました。食料を保存するような大きな箱が発見されたこともあります。石の箱は、古代において一般的に用いられていたのです。

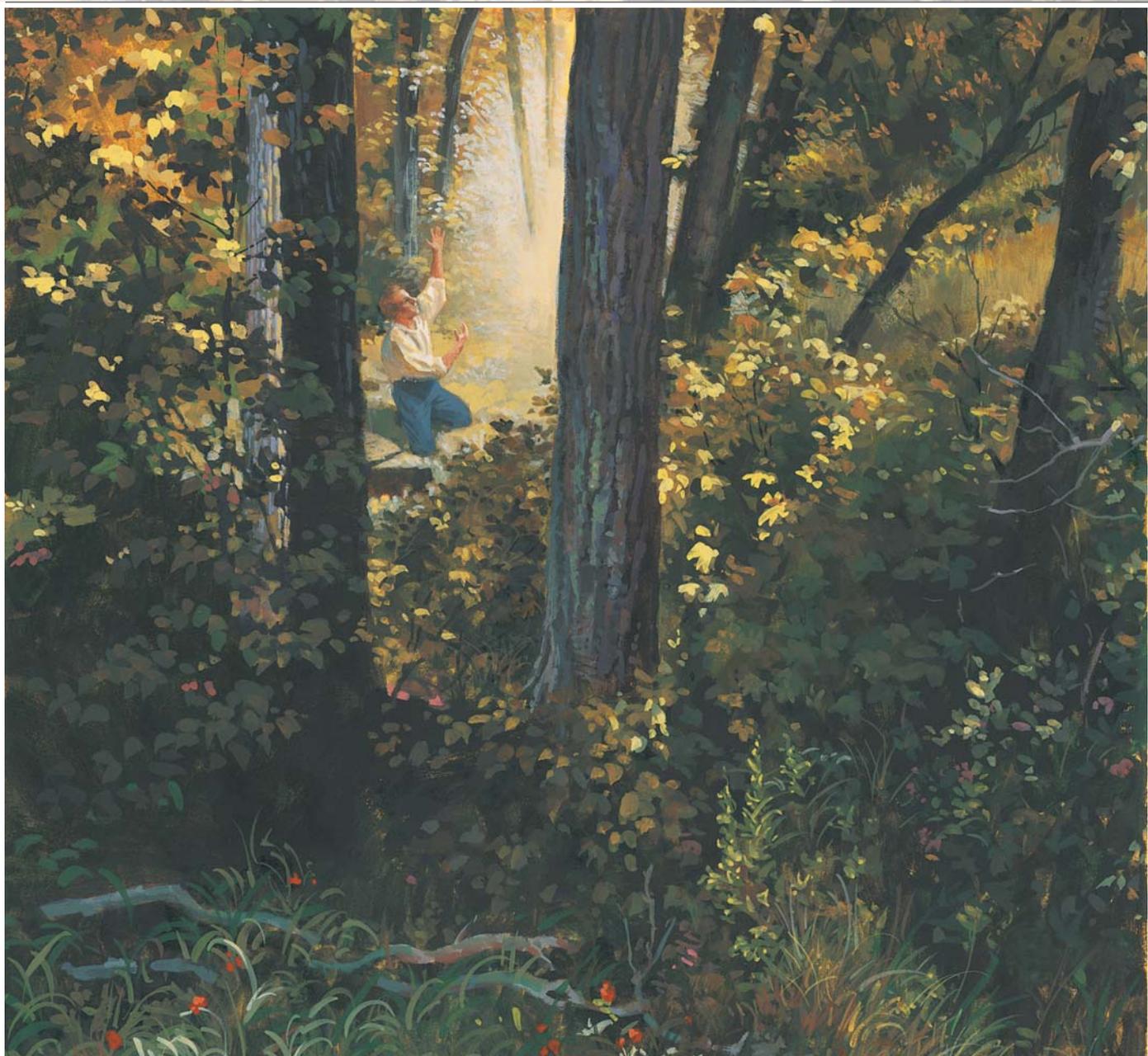
神の賜物と力によって

さて、この記録が実際に翻訳された様子について……よく考えてみてください。ジョセフ・スミスは、神の賜物と力によってモルモン書を翻訳したと述べています。ウリムとトンミムを使って翻訳を行いました。当時のジョセフが無学であったことを考えれば、ほかの方法ではなし得なかったでしょう。……

……ジョセフの筆記者を務めたオリバー・カウドリも同じことを言っています。「わたしは、預言者〔ジョセフ・スミス〕が神の賜物と力によって翻訳して語る言葉を、(数ページを除き)モルモン書全体にわたって、この手で書き取りました。」¹

筆記を手伝ったもう一人の人物、マーティン・ハリスも同じように証しています。さらに、時々筆記を手伝った……預言者の愛妻、エマ・スミスも次のように証しています。

「靈感を受けていたのでなければ、だれもあのような原稿を口述することはできませんでした。わたしはそう確信しています。というのも、〔わたしが〕筆記者〔を務めていた〕とき、〔ジョセフ〕はわたしに何時間も口述しました。そして食事やほかの用のために中断しても、戻って来ると中断したその箇所からすぐに次の文へ進んだからです。それまでの原稿に目を通したり、一部を読んでほしいとわたしに言ったりしたことは一度もありませんでした。……学識の豊かな人でもこのようなことはできないと思います。ましてや、……彼のような無学な人にそれはまった



く不可能なことでした。]² ……

モルモン書は文学的にも宗教的にも傑出した作品です。農家の少年のたわいない望みや才能でできるものではありません。モルモン書は隅から隅まですべて近代の啓示であり、神から与えられた言葉なのです。……

モルモン書の翻訳はまさに奇跡でした。この書物はイザヤが述べた「不思議な驚くべきわざ」なのです（イザヤ29：14）。

全編を通じて、モルモン書は啓示であり、靈感により翻訳されたものであり、人ではなく神の業です。どのページを取っても、真実です。……

このようにして、この新しい聖典、神から

の新しい啓示は、若く無学なジョセフ・スミスによってもたらされ、世の救い主の神性に対する第2の正確な証となったのです。■

この記事は、1977年10月の総大会における説教を基に、小見出しを付け加え、現行の表記法を適用して書かれています。

注

1. Reuben Miller Journals, 1848–49, 末日聖徒イエス・キリスト教会、家族・教会歴史部記録保管庫、1848年10月21日付
2. “Last Testimony of Sister Emma,” *Saints’ Herald*, 1879年10月1日付, 290

天使モロナイは
ジョセフ・
スミスに
モルモン書が
隠してある場所を
教えました。
ジョセフは後に
モルモン書を
神の賜物と力によって
翻訳しました。

質疑応答

「わたしは魅力的ではありません。『そんなことないよ』なんて言わないでください。どうしてこのような姿で生まれたのでしょうか。」

『リアホナ』からの提案

鏡をのぞくと、何が見えますか。外見のことを考える代わりに、周囲の人との関係について考えてみてはどうでしょうか。あなたは両親にとって娘または息子です。きょうだいがいれば、姉妹または兄弟です。いどこ、友人、ワードまたは支部の会員でもあります。多くの人が、ありのままのあなたを愛し、大切に思っています。

自分の長所について考えてはどうでしょうか。あなたは親切な人、熱心に働く人、あるいはよい友人であることでしょう。どのような能力を持っていても、あなたは貴重な才能、独自の性格、そして人生の目的という祝福を与えられているのです。

自分は何者で、天の御父があなたのことをどのように思っておられるか尋ねてみるのもよいでしょう。「顔かたちや身のたけを見てはならない。わたしはすでにその人を捨てた。わたしが見るところは人とは異なる。人は外の顔かたちを見、主は心を見る。」(サムエル上16:7, 強調付加) 祈り、聖文研究、そして戒めを守ることは、あなたが高貴な受け継

天の御父とたくさんの方があなたを愛しています。

「人は外の顔かたちを見、主は心を見る。」

周りの人と比較してはいけません。最高の自分になることだけを考えましょう。

肉体の基本的な特徴は親から受け継いだものです。しかし、どういう話し方をしてどんな身なりをするか、健康にどう気を遣うかはあなた次第です。ほほえみ、人に好かれる性格、あるいは明るい表情があなたを魅力あふれる人になります。

神に仕えたり、必要な儀式を受けたり、最後まで忠実に生活したりすることが外見によって妨げられることはありません。

ぎを持っており、あなたを愛し心にかけておられる天の御父の霊の息子や娘であることを知る助けになるでしょう。

心の内に目を向ける

世の中が重視する基準で自分を人と比べてしまうと、自分の外見を不満に思うかもしれません。周りの人の方が自分よりも外見が良い(あるいは頭が良い、人気がある)と考えたと、落胆したり、うらやましくなったりすることが時々あります。あるいは、人は自分ほど外見が良くない(頭が良くない、人気がない)と考えたと、高慢な気持ちになることもあります。健全な比較とは、今の自分と、将来の自分すなわち最高の自分を比べることです。

できる範囲のことをする

外見については、自分ではどうにもならないこともあります。しかし、才能を人に役立つ、人格を磨く、清潔で清楚な身だしなみをする、そして霊性を高めるなど、より魅力的になるためにできることもあります。このように自分を磨くことで、自尊心も向上します。



上を向く

救い主は皆さんの気持ちを御存じです。主は皆さんの痛みや苦しみを経験されました（アルマ7：11-12参照）。主の助けがあれば、現世での生活を本来の目的に添って送ることができます。すなわち、信仰によって生活し、天の御父の御心を行うことを学ぶのです（アブラハム3：25参照）。

清く、親切な、感謝にあふれる心といった内なる美しさをはぐくむなら、平安と幸福を得られます。そして自分の悩みもそれほど大きく感じなくなるでしょう。

読者からの提案



神はあなたの心の痛みを御存じですが、人生の問題は霊的な成長を助けてくれることがあります。天の御父はあなたが自分に与えられた賜物を使って最善を尽くすことを望んでおられます。人を助け、だれかが幸福になれるよう最善を尽くして助けるならば、人々はあなたの内なる美しさ分かり、あなたも自分に自信が持てるようになるでしょう。

アルバータ州エドモントン・リバーバンドステーキ

ホワイトコート支部

リネット・ドルアン, 18歳



この世では完全な肉体を得ることはできないかもしれませんが、家族、友人、福音など、天の御父が下さった素晴らしい祝福を思い起こしましょう。

フィリピン・ロベスステーキ, ロベス第1ワード
アマリン・C・ロテルテ, 19歳

天の御父は御自分の姿形に似せて人を創造されました（創世1：26-27参照）。主はありのままのわたしたちを愛してく

ださっているのです、わたしたちもありのままの自分を受け入れるべきです。主から見て、ほかの人より好ましい人、醜い人、美しい人は存在しません。主は心を見られます。清い心と親切な気持ちがあれば、外見は重要ではないのです。

ホンジュラス・コマヤグアステーキ、シグアテペケワード
アルマ・アイリス・サンチェス・エチェベリア、17歳



天の御父はあなたがたくさんのよい特質を持っていることを御存じですが、それを自ら見いだしてほしいと望んでおられます。御父があなたを愛しているのと同じくらい、あなた

が自分を愛するように望んでおられます。大部分の10代の若者は自分を周りの人と比べますが、わたしたちはただ自分になれる最高の自分になり、正義を選ばよいです。人々はあなたからキリストの光が放たれるのを見るでしょう。

ワシントン州リッチランドステーキ、ショアラインワード
ニケル・バード、16歳

学校で一番の人気者になれるような外見ではないかもしれませんが、だからといって天の御父が愛して下さらないということはありません。幸福は外見からではなく、自分が神の子供であると知ることからもたらされます。神は、周りの人を愛し助けることによって幸福を見いだしてほしいと望んでおられるのです。

メキシコ・メキシコシティ西伝道部

モロナイ・アブラハム・ヒメネス・ペレス長老、20歳

わたしは自分のことを魅力的ではないと思っていました。でも母は、心の内にあるものがにじみ出ていて、わたしはきれいだと教えてくれました。今わたしは、神殿に連れて行ってくださったすてきな男性と結婚しています。正しいことを行えば、ほかの人には見えない美しさに気づいてくれる人を見いだせるよう、主は助けてくださいます。

テキサス州サンアントニオ東ステーキ、ウッドレークワード
クローディア・アロンソ、20歳

神の目から見て、あなたは貴重な宝石です。主は、あなたが義にかなった生活をするために必要な賜物を与えてくださいました。肉体の美しさは時間とともに色あせていきますが、価値観や特質はいつまでも残ります。



「神にとって、ほかの人より大切にされて

いなかったり、慈しまれていなかったりする人はだれもないことを証します。自分に自信のない人や、不安を抱えている人、自分を否定的にとらえている人、そのほか様々な弱点を持つ人すべてを、神は愛しておられることを証します。神はわたしたちの才能、容姿、……などを測ったりはなさいません。神は、競技場で走るわたしたち一人一人に、この競技が参加者同士の争いではなく、罪との戦いであると呼びかけ、声援を送っておられます。」

十二使徒定員会
ジェフリー・R・ホランド
「もう一人の放蕩息子」
『リアホナ』2002年7月号、
72参照

フィリピン・ウルダネタステーキ、ピナロナン第2支部
レックス・ダニエル・D・ロンボイ、16歳



ほとんどの女の子は、自分は魅力的ではないと考えているようです。わたしはそのような気持ちになるとき、天の御父がどれほど愛してくださっているかを忘れてしまいます。だれでも長所やその人にしかない何かを持っています。最も重要なのは、美しい精神と心の平安を持つことです。

ロシア・サンクトペテルスブルク地方部、コルリノ支部
スペトラーナ・コロトワ、18歳

最も重要なのは、人の心だと思えます。たとえ外見が悪くなくても、善い人になることができます。いつの日か肉体は完全になります。

アルゼンチン・ロケサンスペーニャ地方部

ロケサンスペーニャ支部

アンジェレス・ナタリア・ティセラ、15歳

家族が教えてくれたおかげで、真の美しさとは、人目を引くものではなく神の御心にかなうものであることがよく分かりました。周りの人を励ますために、謙遜さ、忍耐、愛をさらにはぐくみましょう。

タヒチ・パベエステーキ、ファウタウアワード

メリラニ・ジョンストン、15歳

本誌の答えは、問題解決の一助となるように意図されたものであり、教会の教義を公式に宣言するものではありません。

あなたの意見を聞かせてください

青少年の読者の皆さんへ——下記の質問に対するご意見を、氏名、生年月日、ワードおよびステーキ(または支部および地方部)を明記のうえ、写真を添えて、2005年1月15日必着で下記まで郵送か電子メールでお送りください。

あて先——Questions and Answers 1/05
50 East North Temple Street, Floor 24
Salt Lake City, UT 84150-3220, USA
電子メールアドレス——cur-liahona-imag@ldschurch.org

質問

「友達、ジョセフ・スミスのお話を信じなくてもよいのなら教会に入りたいと言っています。どのように答えたらよいでしょうか。」■

クリスマスイブの朝食

トーニ・ヘークス

18年ほど前のクリスマスイブに、若い母親であったわたしは、自分の家庭の現実と自分が思い描く理想のクリスマスとの間にある大きな隔たりを痛いほど感じていました。——テレビや雑誌で描かれているような理想のクリスマス、美しい飾り付け、最高のごちそう、幸せそうにほほえむ子供たちに囲まれたクリスマス。わたしはプレゼントの包装や掃除を終わらせようと懸命に努力していました。一方で3人の小さな息子(しかも一人はとても気難しい赤ん坊なのです)の世話に追われながら、せめて少しは秩序と平安を保とうとしていました。その夜は憂うつな思いが心をふさぎ、どうしようもありませんでした。

日が暮れ始めていました。わたしは赤ん坊を子供用のいすに座らせ、食事を食べさせておとなしくさせようとしていました。夕食の時間が迫っているのに、ろうそくのもったテーブルもなければ温かいごちそうもなく、ガスレンジの上には何も用意されていませんでした。ちょうどそのとき、クリスマス直前の買い物に出ていた夫が台所に入って来て、カウンターにホットケーキ

ミックスと冷凍オレンジジュース、それにソーセージのパックを置きました。それを見てわたしは、夫が彼なりの言葉で「君が限界なのは分かっているから、最悪の場合は、喜んでほぐがクリスマスイブの夕食を準備するよ」と言ってくれているのだと分かりました。

そこでそのクリスマスイブの晩、わたしたち家族は朝食のような食事を共にしました。味は覚えていませんが、愛され理解されると感じたことは覚えています。そのとき以来、我が家のクリスマスイブの夕べにはずっとその朝食のような食事

わたしは疲れ、参ってしまっていました。
すると夫がホットケーキミックスと冷凍オレンジジュース、それにソーセージのパックを持って台所に入ってきました。

をしています。子供たちはきっとその意味が理解できないでしょう。それでも朝食のようなクリスマスイブの夕食は我が家の伝統になっていて、変わることなく続いています。

ずっと昔、あのクリスマスイブに夫がわたしのためにしてくれた小さな奉仕はささいなことのように思えるかもしれませんが、それはわたしに、日常生活の中での小さな、思いやりのある行いには人生を変える力があることを教えてくれました。自分自身や人の無私の奉仕によって、御霊が心に宿り、キリストを生活に迎え入れることができます。そしてこの季節はそのためにあるのです。飾り付けは舞台を用意してくれるかもしれませんが、愛と奉仕こそがまさにクリスマスの主役なのです。■

トーニ・ヘークスはユタ州サンディー東ステーク、ウィローキャニオン第8ワードの会員です。



アパラチア山脈の クリスマスツリー

ローリー・ホブキンズ

1977年のクリスマスはわたしにとって楽しいものではありませんでした。訪問できるほど近くに住む親族もなく、我が家にはお金もほとんどなく、気分を高めしてくれるようなかわいい飾り付けもありませんでした。——あるものといえば、色紙とポップコーンチェーンをつるして飾った、枝のまばらな小さいクリスマスツリーだけでした。もし幼い子供たちの無邪気な願いがなかったなら、恐らくわざわざその木を飾ることさえなかったと思います。

夫は約45分かけて車で仕事に行かなければならなかったもので、我が家の唯一の交通手段を持って行ってしまいます。わたしは毎日、一日中、出かけることもできず、あらゆるものから何マイルも離れて過ごしていました。いちばん近くの町までは、異常に曲がりくねった山道を越えて車で20分かかりました。教会や小さな支部のほとんどの会員の家からも1時間近く離れていました。

わたしたちは若者の理想主義と冒険心に任せてこの孤立したアパラチア地方の溪谷に移って来ました。夫がバージニア州にある安い土地のことを聞いてきて、わたしが「何もない所だわ」と言う間もなく引っ越しは終わっていました。夫は山腹に小さな家を建て、水は近くの泉から引きました。

何とかつリーと 子供たちの バランスを

保ちながら、
大きな災難に
見舞われることもなく
無事に小屋のドアに
たどり着きました。

ごく少数で、なおかつ離れてはいましたが、隣人もいることはいました。最も近い家は1801年に建てられた丸太小屋で、しばらくの間アンダーソン家族(仮名)という同じ支部の若い家族が借りていました。わたしたちのように貧しく、父親のドナルドは週に6日、時には7日働いていました。ドナルドとルースにはわたしたちと同じように3人の幼い子供がいて、ルースはいつも疲れ切っていました。

我が家からルースのところまでは、わだちのできた泥道を進む、かなり危険なハイキングでした。お互い赤ん坊

を抱き、二人の幼い子供を連れて行かなければならないので、あまり気軽に訪問することはできません。しかしそんな数少ない訪問の際に、ルースからまだクリスマスツリーを手に入れていないことを聞きました。ドナルドは夜明け前に家を出て、夜遅くまで帰って来ません。ルースには木を探して野山を歩き回ることはできませんでした。

クリスマスの直前のある晩、わたしは突然、アンダーソン家族のためにクリスマスツリーを見つけないという激しい衝動に駆られました。とにかく、彼らのために木を手に入れなければいけない、という思いが突如としてわ



いてきたのです。わたしたちのツリーは粗末ではあるかもしれませんが、少なくともクリスマスの精神の一部を我が家にもたらし続けていました。

その晩、紙のチェーンやポップコーンを数珠つなぎにした飾り、そしてもちろん、木の頂に飾るためのキラキラ光る黄色の星を作りました。翌朝、わたしは歩いて山の中腹に行き、小さな木を探しました。そして見つけた木を切り倒し、植木鉢の代わりに古い容器を見つけ、土を詰めて土台にしました。

完成品は美しいというよりは滑稽こっけいでしたが、それでも十分愉快的気分してくれるものでした。——ちょっと目を細めて見ればですが。

わたしはルースに電話をして、行ってもよいか尋ね、子供たちに厚着をさせて山を下りて行きました。何とかツリーと子供たちのバランスを保ちながら、大きな災難に見舞われることもなく無事に小屋のドアにたどり着きました。戸をたたき音を聞いて出て来たルースは、滑稽な小さいツリーを一目見るな

り、わっと泣きだしてしまいました。わたしは結局それほど良いアイデアではなかったかもしれないと不安でいっぱいになりながら家に入りました。

ルースは落ち着きを取り戻すと、涙の理由を説明してくれました。昨日ドナルドが仕事から帰宅したのは夕方遅くのことでした。戸棚はほとんど空だったので、一家は車に乗り込んで長い道のりを店へと向かいました。しばらくすると3歳のマイケルが言いました。「お父さん、みんなでお祈りしてもいい？」

まずカードを開けてごらんなさい

サムエル・オソリオ・メンドーサ

若いころには、クリスマスクリスマスの時期になると何をもらうかで頭がいっぱいになって

しまうことがあります。1991年、わたしは最高の贈り物プレゼントをもらいました。

その前の年、母しんせきや何人かの親戚が示してくれた模範のおかげで、わたしは伝道に出る決意をしていました。そこで18歳の誕生日を迎えた後に大学を去り、貯金するため、また伝道を支えてくれる家族の負担を軽くするために、1年間消防署で働きました。

そしてついに申請書を提出し、12月1日までには主に仕えるために出発しているだろうと確信していました。12月の最初の2週間が過ぎると、クリスマスのプレゼントをもらうよりも申請の返事を受け取ることを心待ち

にするようになりました。しかし手紙は来ません。もしかすると主はわたしを愛しておられないのかもしれない、あるいはわたしはふさわしくないのでは、といった様々な悪い思いが胸をよぎりました。

クリスマスイブに、弟と一緒に家の近くの会館でハンドボールをするために朝早く出かけました。

家に帰るとクリスマスカードがツリーにつるされていて、その中にプレゼント用の包装紙で包まれたとても大きなカードがあることに気づきました。それにはわたしの名前が書かれていました。開けたかったのですが、母から夕方になって家族が集まるまで待った方がいいと言われました。

夕食の後、プレゼントを開けることになりました。わたしはいちばん

大きなプレゼントを手にとろうとしましたが、家族からまず例のカードを開けるように言われました。そこで開けてみると、中に入っていたのは手紙で、しかも差出人は末日聖徒イエス・キリスト教会となっており、受取人はサムエル・オソリオ長老となっていました。

その後しばらくはカメラのフラッシュしか見えませんでした。父がわたしの驚いた顔を写真に撮っていたのです。わたしはクリスマスイブに召しを受け取ることができてとてもうれしく思い、また感謝しました。

それは最高のクリスマスプレゼントでした。伝道は人生で最も素晴らしい経験の一つとなりました。主からの召しはわたしがこれまでクリスマスにももらったものの中で最高の贈り物です。■

サムエル・オソリオ・メンドーサはメキシコ・パルマスボサリカステーク、パルマスワードの会員です。



ドナルドはマイケルに祈ってくれるか尋ねました。すると子供の純粋な信仰をもって、マイケルはクリスマスツリーを手に入れることができるよう天の御父に助けを求めたのです。「アーメン」と言った後、ドナルドとルースは顔を見合わせました。幼い息子の切なる願いをかなえるためにはこれまで以上の努力をしなければならぬことが分かっていたからです。その晩、二人はどうすればよいか思いつかないまま、途方に暮れながら床に就きました。

ですから、小さなツリーを持って現れたわたしたちは、何人もの祈りにこたえていたのです。アンダーソン家の子供たちはわたしたちを見るなり歓声を上げ、おかしな姿をしたツリーのために特別な場所を作りました。これほどまでに愛されたクリスマスツリーはこれまで決してなかったでしょう。

しかしそのクリスマスに起きた奇跡は、幼い少年の心から天へと届き、そこから折り返して今度は助けることのできる人の心へと届いた、あの祈りだけではありませんでした。与えるという行いにわたしが見いだした癒しの力もまた奇跡でした。

アンダーソン家族のために木を見つめるという考えが浮かんだ瞬間から、クリスマスの精神がわたし自身の心に満ち始めました。わたしは主に感謝しました。わたしに手を差し伸べて教えようとするほどに主がわたしを愛してくださっていたからです。そして、自分を失うときにこそ自分を見いだすことに改めて気づかされました。わたしたちは仕えるときに、「主は心の打ち砕かれた者をいやし、その傷を包まれる」という言葉の意味を理解するのです(詩篇147:3)。■

ローリー・ホプキンはコロラド州ラブランドステーク、ビッグトンプソンワードの会員です。

地下鉄の宣教師

レミー・ファン・デル・ブット

フランスでの伝道中に経験した最初のクリスマスはとても楽しいものでした。あるすばらしい会員の家族に招かれてともに祝い、くつろいで心地よく過ごすことができました。しかし、2度目のクリスマスは記憶の中でひときわ輝きを放っており、いつまでも貴重な思い出となることでしょう。

わたしが伝道していたフランスの小さな町には、ホリデーシーズンの興奮が漂っていました。店にはクリスマスの音楽が流れ、至る所に広告が出され、郵便物にはクリスマスカードが入っていました。

クリスマスの数日前、わたしたちの地域の宣教師はバスや地下鉄の駅、ショッピングモールへキャロリングに行きました。クリスマスキャロルを歌い、パンフレットを配り、クリスマス用の包装紙で包んだモルモン書をプレゼントすることによって、フランスの兄弟姉妹とクリスマスの喜びを分かち合おうとしたのです。みんなに楽しいクリスマスを過ごしてもらいたいと願っていました。前年と同様、クリスマスイブは会員の家族の家で過ごす計画になっていました。同僚とわたしはすでに招待を受けていて、手作りのすばらしいクリスマスの夕食を楽しみにしていました。

12月24日、午前中ずっと熱心に働きました。ところが昼食のために家に戻ったとき、その晩に招いてくれた家族から電話がありました。親族に不幸があったために約束をキャンセルしなければならなかった

のです。忙しいその家族を訪問することはできず、電話でできるかぎり慰めようと努力しました。電話を切った後、わたしはその晩がとても寂しいクリスマスイブになることを悟りました。アパートのほかの長老たちは別の家族に招かれていました。わたしたちは昼食を取り、再び伝道に出かけました。

日が暮れて、冷たい風が吹いてきました。暖かな家々、幸せな顔であふれる家々の中で光り輝くクリスマスツリーを眺めながら、わたしはぼんやりとオランダにいる自分の家族のことを考えました。一緒に腰を下ろし、クリスマスキャロルを歌い、降誕の物語を読んでいることでしょう。そして皆でクリスマスの音楽を聴きながら、父はツリーのろうそくに火をとますのです。ふいにわたしはとても家族が恋しくてたまらなくなってしまいました。

アパートに帰り、わたしは自分自身をととても哀れに思いながら、机に向かいました。モルモンタバナクル合唱団のクリスマス曲のテープをかけ、日記を書きました。

伝道で学んだ数多くの事柄の一つは、一緒に働いた人たちはいつでも理由があつてわたしの同僚になっていた、ということです。ワグナー長老の場合もそうでした。しばらくして彼はいすから立ち上がり、考えがあると仰いました。「包装紙で包んだモルモン書を何冊か持って地下鉄の駅に行き、同じようにクリスマスイブを寂しく過ごしている人々に話しかけませんか。」彼はそう提案しました。わたしは一緒に行くと言ったものの、その考えにはあまり気が進みませんでした。いすに座って、自分のことを哀れに思っていたかったのです。

わたしたちはアパートを出て、地



窓の傍らに
一人で
座っている
男性に声をかけ、
家族や
クリスマスについて
話を始めました。

下鉄に向かって歩き始めました。駅に近づくにつれて、これはそんなに悪い考えではなく、もしかすると良い経験になるかもしれないという思いが強くなってきました。地下鉄に乗ると、ほとんど人影がありません。数人が散らばって乗っていました。わたしは窓の傍らに一人で座っている男性に声をかけました。自己紹介をして、一緒に座ってもよいか尋ねると、彼は同意してくれました。わたしたちは家族の話——彼の家族、わたしの家族の話を始め、そしてクリスマスについて話しました。彼は自分が難民であり、祖国を離れ、家族からも離れなければならないことを話してくれました。妻と子供のこと、そして彼らがいないのをどれほど寂しく思っているかを話してくれました。状況は同じではありませんでしたが、自分の家族もやはり遠くにいたので共感することができ

ました。それからわたしはイエス・キリストについて話し、主が自分にとってどれほど大切な御方であるか、またクリスマスが自分にとってどれほど大切であるかを話しました。「救い主は地上^{あかし}に来られました。」わたしはそう証しました。

瞬時に心に燃えるものを感じました。その晩、地下鉄の中でほかの人たちにイエス・キリストについて話し、証したときにも、同じ燃えるような感覚を覚えました。やがて同僚と一緒にそこを離れてアパートに向かったときには、すばらしい感謝の気持ちでいっぱいでした。その晩の出来事について話し合うと、同僚も同じものを感じていたことが分かりました。わたしたちはまさにクリスマスの精神を感じていたのであり、

わたしは喜びで胸がはちきれそうでした。救い主はベツレヘムでわたしのために、そして全世界のためにお生まれになったのです！福音とともに人生を歩めることを、そしてあの晩、主のわたしへの愛を感じられたことを、どれほど祝福に感じたのでしょうか。

わたしはこれからもあのクリスマスをいつも懐かしく思い出すでしょう。なぜならあのクリスマスイブに、ようやくクリスマスとは何かを学んだからです。クリスマスはキリストのため、生ける神の御子についてのわたしの貴重な証を分かち合うためのものなのです。■

レミー・ファン・デル・ブットはワシントン州カークランドステーキ、カークランド第2ワードの会員です。



預言が成就する

地上に住むあらゆる人に永遠の福音が宣べ伝えられるという預言が成就しつつあります。機関誌『リアホナ』もその一つです。わたしはゴードン・B・ヒンクレー大管長の言葉をいつも期待しながら受け取っています。

ボリビア・リャーリャグア地方部
リャーリャグア支部
ゼノン・カブレラ・C

会員の助け

『リアホナ』が届くと、一日で全部読んでしまいます。わたしは特に会員たちの霊的な経験を読むのが楽しみで、それによって歩み続けることができるのです。

パラグアイ・
ペドロ・ファン・カバリエーロ地方部
ペドロ・ファン・カバリエーロ第3支部
ルース・カバリエーロ

「福音クラシック」により祝福を受ける

いつでも『リアホナ』を読むと心が落ち着きます。「福音クラシック」が大好きです。預言者や教会の指導者の言葉は心を打ち、生活に大きな祝福をもたらしてくれます。

台湾^{ホッアライオン}・花蓮^{フイトン}地方部
台東支部
リアオ・アリン

宣教師の機関誌

伝道しているわたしにとって、『リアホナ』はとても役立っています。教会の指導者の記事のおかげで、会員や求道者、そして同僚の宣教師に良いアドバイスをすることができます。『リアホナ』の記事を友達に郵送することによって伝道することもできます。このようにして、自分にできる様々な方法で福音を宣べ伝えなさいという指導者の勧告に従うことができます。

メキシコ・レオン伝道部
エーブラハム・オルダス長老

「リアホナ」は宝物です

『リアホナ』を毎月楽しく読んでいます。経験^{あかし}や証を分かち合ってくれる人々のおかげで、自分の問題の答えを、いちばん必要としているときに見つけ出すことができます。『リアホナ』は宝物です。

ウクライナ・ドニエプロペトロフスク地方部
ザボロージェ・ツェントラルニー支部
オルガ・フリブコ

「慎み深さ」に関する提案をお寄せください

今日の世の中では、慎み深い服装をすることは一つのチャレンジです。普段着、運動着、正装——あなたは慎み深い服を着るためにどのような努力をしていますか。家族やワード、ステーク(支部、地方部)の中で、どのようにして慎み深さを奨励してきましたか。あなたの意見を下記のあて先にお送りください。

あて先——
Modesty, Liahona, Room 2420,
50 East North Temple Street,
Salt Lake City, UT 84150-3220, USA
電子メール——

cur-liahona-imag@ldschurch.org

『リアホナ』を プレゼント してみませんか？

思い出してください。教会のことを時々尋ねてくる職場の友人、あまり活発でないホームティーチングの担当家族、励ましたい子、力づけたい家族、伝道地で新しい言語を学んできた帰還宣教師。この人々は、あなたからの『リアホナ』定期購読のプレゼントをきっと喜んでくれるでしょう。

『リアホナ』は以下の言語で出版されており、自宅用またはプレゼント用として申し込むことができます。(発行頻度は言語により異なります。)—アイスランド語、アルバニア語、アルメニア語(東部)、イタリア語、インドネシア語、ウクライナ語、英語、エストニア語、オランダ語、韓国語、カンボジア語、キリバス語、クロアチア語、サモア語、シンハラ語、スウェーデン語、スペイン語、スロベニア語、セブアノ語、タイ語、タガログ語、タヒチ語、タミル語、中国語、チェコ語、テルグ語、デンマーク語、ドイツ語、トンガ語、日本語、ノルウェー語、ハイチ語、ハンガリー語、フィジー語、フィンランド語、フランス語、ブルガリア語、ベトナム語、ポーランド語、ポルトガル語、マーシャル語、モンゴル語、ラトビア語、リトアニア語、ルーマニア語、ロシア語。

定期購読の申込みや注文方法については、ワード/支部の指導者または地元の配送センターにお問い合わせください。



「**歴** 史上最も偉大な行いは、
わたしたちの救い主、
贖^{あがな}い主による贖いの犠牲でした。

主の降誕を祝うこの季節、
わたしたちはその犠牲を思い起こします。
平和の君が払われた贖いの犠牲を通してのみ、
わたしたちは自身の生活の中で
平和の力を知ることができるのです。」

ジェームズ・E・ファウスト副管長

「平和の力」2ページ参照



2 902249923004
24992 300